

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

JCE35 U.S. PRO
10/021536
10/30/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年10月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-331264

出 願 人

Applicant(s):

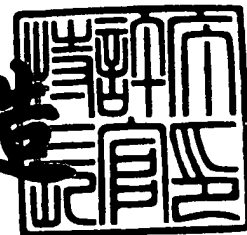
松下電器産業株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 8月24日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



【書類名】 特許願

【整理番号】 2892020268

【提出日】 平成12年10月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/44

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県高松市古新町 8 番地の 1 松下寿電子工業株式会
社内

 【氏名】 友光 千晶

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県高松市古新町 8 番地の 1 松下寿電子工業株式会
社内

 【氏名】 森 永年

【発明者】

 【住所又は居所】 香川県高松市古新町 8 番地の 1 松下寿電子工業株式会
社内

 【氏名】 亀山 孝一

【特許出願人】

 【識別番号】 000005821

 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100092794

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松田 正道

 【電話番号】 06-6397-2840

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 009896

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9006027

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録再生装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録するリングバッファである一時保存領域と、

前記番組データを長期記録する長期保存領域と、

前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信されている番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、少なくとも前記一時保存領域に記録された所定の番組データを前記長期保存領域にコピーすることを特徴とする記録再生装置。

【請求項 2】 前記記録再生手段は、前記受信されている番組データの番組が終了するまで前記一時保存領域に前記番組データの一時記録を行った後に、該番組データをコピーすることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 3】 映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録するリングバッファである一時保存領域と、

前記番組データを長期記録する長期保存領域と、

前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信されている番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、前記一時保存領域に記録された所定の番組データを前記長期保存領域にコピーするとともに、前記長期保存領域にコピーされたもの以外の、受信されている前記番組データを、前記長期保存領域に記録するものであることを特徴とする記録再生装置。

【請求項 4】 前記記録再生手段が、前記一時保存領域から前記長期保存領域

に前記番組データのコピーを行うタイミングは、前記番組データの長期記録を指示された直後であることを特徴とする請求項 3 に記載の記録再生装置。

【請求項 5】 前記記録再生手段が、前記一時保存領域から前記長期保存領域に前記番組データのコピーを行うタイミングは、前記一時保存領域が上書き記録される直前であることを特徴とする請求項 3 に記載の記録再生装置。

【請求項 6】 前記記録再生手段は、前記一時保存領域に対して、少なくとも記録動作を停止した後に、前記受信されている前記番組データを前記長期保存領域に記録することを特徴とする請求項 3 に記載の記録再生装置。

【請求項 7】 前記一時保存領域から前記長期保存領域にコピーされる前記所定の番組データは、前記一時保存領域に記録された番組データの全部または一部であり、前記一部の場合は、前記一時保存領域上の任意の領域に記録されたデータであることを特徴とする請求項 3 に記載の記録再生装置。

【請求項 8】 映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録する一時保存領域および前記番組データを長期記録する長期保存領域が設定可能な記録領域と、

前記記憶領域上に前記一時保存領域および前記長期保存領域を設定し、前記一時保存領域または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信している番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、

前記一時保存領域上の、前記タイムシフト再生時の再生位置アドレスから記録位置アドレスまでの前記番組データが記録された所定部分を、前記長期保存領域として再設定することを特徴とする記録再生装置。

【請求項 9】 前記長期保存領域として扱われる、前記一時保存領域上の番組データが記録された所定部分は、前記一時保存領域の全部または一部であり、前記一部の場合は、前記一時保存領域上の任意の領域に記録されたデータであることを特徴とする請求項 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 10】 前記長期保存領域上の、前記再設定により得られた長期保存

領域と同一の大きさの領域を、前記一時保存領域として再設定することを特徴とする請求項 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 1】 前記一時保存領域には、受信された順番に前記番組データが一時記録され、

前記番組データは、前記一時保存領域上で、チャンネルおよび／または番組別に互いに識別できるように一時記録されていることを特徴とする請求項 1, 3 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 2】 前記記録再生手段は、ユーザからの入力に基づき、前記一時保存領域に一時期録された番組データのうち、所定の部分をつなぎ合わせて、前記長期保存領域にコピーを行うことを特徴とする請求項 1 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 3】 前記所定の部分をつなぎ合わせられた番組データは 1 つの番組に属するものであることを特徴とする請求項 1 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 4】 前記番組データの識別は、EPG (Electronic Program Guide) により定められることを特徴とする請求項 1 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 5】 前記記録再生手段は、前記一時保存領域に一時記録されている番組データのいずれかの番組が終了した場合、前記一時保存領域に記録された番組データを削除することを特徴とする請求項 1, 3 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 6】 前記いずれかの番組は、現在ユーザが視聴中の番組であることを特徴とする請求項 1 5 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 7】 ユーザに前記記録再生装置の動作内容を予告する告知手段をさらに備え、

前記告知手段は、前記一時保存領域に記録された番組データを削除することを、前記ユーザに予告することを特徴とする請求項 1 5 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 8】 ユーザからの入力操作を受け付ける入力部をさらに備え、前記入力部を介した前記ユーザの入力操作により、前記一時保存領域の番組データを削除することを特徴とする請求項 1 5 に記載の記録再生装置。

【請求項 1 9】 前記番組の終了する時刻は、EPG (Electronic Program Guide) により定められることを特徴とする請求項 1 5 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 0】 前記一時保存領域は、複数の一時保存ファイルを有することを特徴とする請求項 1, 3 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 1】 1 つの前記一時保存ファイルには、1 つの番組の前記番組データが一時記録されることを特徴とする請求項 2 0 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 2】 前記一時保存領域は、ユーザが視聴した番組数の一時保存ファイルを有することを特徴とする請求項 2 0 または 2 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 3】 前記番組は、EPG (Electronic Program Guide) により定められることを特徴とする請求項 2 1 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 4】 前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に記録される番組データの画質を変更するための画質変更手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1, 3 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 5】 前記長期保存領域に記録される番組データの画質の変更は、前記一時保存領域に一時記録されている番組データの画質と同等または、より低画質にするものであることを特徴とする請求項 2 4 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 6】 前記一時保存領域に一時記録される前記番組データの画質は、最も高画質な設定であることを特徴とする請求項 2 5 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 7】 前記画質変更手段は、同一の番組の番組データ内で画質が異なっている場合、前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させることを特徴とする請求項 2 4 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 8】 前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させる動作は、前記番組の終了時点で自動的に行われることを特徴とする請求項 2 7 に記載の記録再生装置。

【請求項 2 9】 前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させる動作は、前記番組の終了後、前記記録再生手段が記録動作を行っていないときに自動的に行われることを特徴とする請求項 2 7 に記載の記録再生装置。

【請求項 3 0】 前記長期保存領域に対し番組データの長期記録を行う際に、前記画質変更手段に、前記一時保存領域に記録されている番組データの画質と異なる画質が指定されている場合、

前記記録再生手段は、番組の終了まで、前記一時保存領域に保存されている番組データの画質と同一画質で番組データの長期記録を行い、

前記画質変更手段は、前記番組の終了後に、前記長期保存領域内に記録された番組データの画質を、ユーザが指定した画質に変換することを特徴とする請求項 2 4 に記載の記録再生装置。

【請求項 3 1】 前記番組の終了は、EPG (Electronic Program Guide) に基づき定められるものであることを特徴とする請求項 2 8 から 3 0 のいずれかに記載の記録再生装置。

【請求項 3 2】 同一の番組または互いに異なる番組の番組データにおいて、シーンの変わり目を検出するシーンチェンジ検出部をさらに備え、

前記一時保存領域に記録されている画質と異なる画質の長期記録が指定された場合、

前記シーンチェンジ検出部が検出した前記シーンの変わり目に基づき、前記画質変更手段は、ユーザが指定した画質に変更する機能を有することを特徴とする請求項 2 4 に記載の記録再生装置。

【請求項 3 3】 前記一時保存領域の前記リングバッファは可変長であることを特徴とする請求項 1 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 3 4】 前記一時保存領域の前記リングバッファは固定長であることを特徴とする請求項 3 または 8 に記載の記録再生装置。

【請求項 3 5】 請求項 1 から 3 4 のいずれかに記載の本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータを担持した媒体であって、コンピュータにより処理可能なことを特徴とする媒体。

【請求項 3 6】 請求項 1 から 3 4 のいずれかに記載の本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータであることを特徴とする情報集合体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は映像、音声などの番組データを受信し、記録および再生を行う記録再生装置において、一時保存領域にある番組データを利用し、ユーザが希望する番組データを任意の位置からから記録することを可能にした記録再生装置等に関するものである。また、番組データの画質が途中で異なる場合に、高画質の部分を低画質に変換して、画質をそろえることを可能にした記録再生装置等に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、放送を受信し受像機に画像を出力するテレビジョン装置に係わり、特に利用者が自由な時間に指定の放送を見ることができるタイムシフト再生装置として、特開平7-264529号公報が開示されたような技術がある。

【0003】

このような従来例に示されたタイムシフト再生装置は、電波もしくは有線により伝送される放送を受信すると、前記放送を一定の時間幅だけ逐次記録するメモリ装置を有し、前記メモリ装置は前記放送を記録するアドレスと再生するアドレスを別々に指定することができ、前記放送の記録と、前記放送を記録しているアドレスとは別のアドレスに記録されているデータの再生とを同時に行うことができ、前記放送を記録するときのアドレス進行速度に関係なく、再生のアドレス進行速度および方向を自由に選択するタイムシフト再生を行うことができるものである。

【0004】

以下、図13は前記タイムシフト再生装置の構成ブロック図である。図において、3101は外部からの放送を受信するアンテナ、1302はチューナ、1303はモニタ、1304は画像メモリ、1305は音声メモリ、1306は演算装置、1307はメモリコントローラ、1308は切り換えスイッチ、1309a、1309bは入力するアナログ信号をデジタル信号に変換するA/D変換器

、1310 a および 1310 b は入力するデジタル信号をアナログ信号に変換する D/A 変換器である。

【0005】

このような構成を有するタイムシフト再生装置により、タイムシフト再生の動作について説明する。

【0006】

放送局から発信された電波は、アンテナ 1301 を通してチューナ 1302 に入力される。チューナ 1302 に入力された電波は、モニタ 1303 へ接続する経路の途中で取り出されて、映像信号と音声信号に分配される。

【0007】

分配された映像信号と音声信号とは、A/D 変換器 1309 a および 1309 b によりデジタル変換されて、画像メモリ 1304 および音声メモリ 1305 にそれぞれ逐次書き込まれる。

【0008】

メモリコントローラ 1306 は、連続等間隔で画像メモリ 1304 および音声メモリ 1305 への書き込みアドレスを画像メモリ 130 および音声メモリ 1305 へ出力すると同時に、ユーザからの特殊再生の指示に従って、演算装置 1307 から得た読み出しアドレス進行速度および進行方向に従った読み出しアドレスを画像メモリ 1304 および音声メモリ 1305 に出力する。

【0009】

画像メモリ 1304 および音声メモリ 1305 は、演算装置 1307 よりアドレス進行速度および進行方向に沿った読み出しアドレスを受けると、ユーザが指定した特殊再生の映像および画像データを読み出し、モニタ 1303 に出力する。このとき、特殊再生の例として、早送り再生は、記録アドレスの進行速度に対して、再生アドレスの進行速度をより速めるようにすることにより行われる。また、巻き戻し再生は、記録アドレスの進行方向に対して再生アドレスの信号方向を逆にすることにより行われる。また、一時停止は、再生アドレスを固定することにより行われる。

【0010】

チューナ1302から出力される元画像と画像メモリ1304および音声メモリ1305から出力される特殊再生画像とのモニタ1303への出力切り換えは、切り換えスイッチ1308もしくはPinP等の画像合成で行う。

【0011】

従って、画像メモリ1304および音声メモリ1305の書き込みアドレスと読み出しアドレスをメモリコントローラ1306で同時に制御することにより、自由な時間に再生できる。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

従来のタイムシフト再生装置によるタイムシフト再生の動作は以上のようなものであるが、しかしながら、ユーザーが所望する自由な時間にタイムシフト再生するための、現在放送中の番組を記録する画像メモリ1304および音声メモリ1305のようなメモリは、一定時間幅だけデータの記録が可能なリングバッファの構成を有している。

【0013】

このようなリングバッファにおいては、データの記録時間が一定の時間幅を超えると、すでに記録されていた古いデータは、新しいデータによって順番に上書きされることにより消去されてしまうようになっている。

【0014】

そのため、タイムシフト再生中の番組をユーザが後から視聴しようとする場合には、リングバッファ上からデータが上書きによって削除されないように、受信中のデータを、リングバッファとは異なる長期記録用のメモリに記録しておかなければならない。この長期記録用のメモリは、例えばリングバッファと同一のメモリ上に設けられた記録領域となる。

【0015】

しかしながら、図14に示すように、リングバッファ1400へと長期記録用のメモリ1401との記録動作を考えた場合、タイムシフト再生装置において、タイムシフト再生を行っており、チューナ1302からの放送をリングバッファ1400へ記録している書き込みアドレス1402と、リングバッファ1400

上からデータ再生を行う読み出しアドレス 1 4 0 3 が異なっている場合に、ユーザが現在タイムシフト再生を行っている番組の記録を長期記録用のメモリ 1 4 0 1 に記録しようとする際、長期記録用のメモリ 1 4 0 1 においては、放送されるデータの記録位置は、リングバッファ 1 4 0 0 上の書き込みアドレス 1 4 0 2 の記録位置がそのままシフトする。

【 0 0 1 6 】

したがって、タイムシフト再生によって視聴される読み出しアドレス 1 4 0 3 から書き込みアドレス 1 4 0 2 までのデータはリングバッファ 1 4 0 0 に残ることとなり、長期記録用のメモリ 1 4 0 1 には保存されないことになり、ユーザは、この間に記録されているデータを、後になっても視聴することができないという不具合が生じていた。

【 0 0 1 7 】

本発明は、従来例のこのような課題を考慮し、現在視聴中の番組を任意の位置から記録することができる記録再生装置を提供することを目的とする。

【 0 0 1 8 】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、第 1 の本発明（請求項 1 に対応）は、映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録するリングバッファである一時保存領域と、

前記番組データを長期記録する長期保存領域と、

前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信されている番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、少なくとも前記一時保存領域に記録された所定の番組データを前記長期保存領域にコピーすることを特徴とする記録再生装置である。

【 0 0 1 9 】

また、第 2 の本発明（請求項 2 に対応）は、前記記録再生手段は、前記受信さ

れている番組データの番組が終了するまで前記一時保存領域に前記番組データの一時記録を行った後に、該番組データをコピーすることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 0 】

また、第 3 の本発明（請求項 3 に対応）は、映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録するリングバッファである一時保存領域と、

前記番組データを長期記録する長期保存領域と、

前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信されている番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、前記一時保存領域に記録された所定の番組データを前記長期保存領域にコピーするとともに、前記長期保存領域にコピーされたもの以外の、受信されている前記番組データを、前記長期保存領域に記録するものであることを特徴とする記録再生装置である。

【 0 0 2 1 】

また、第 4 の本発明（請求項 4 に対応）は、前記記録再生手段が、前記一時保存領域から前記長期保存領域に前記番組データのコピーを行うタイミングは、前記番組データの長期記録を指示された直後であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 2 】

また、第 5 の本発明（請求項 5 に対応）は、前記記録再生手段が、前記一時保存領域から前記長期保存領域に前記番組データのコピーを行うタイミングは、前記一時保存領域が上書き記録される直前であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 3 】

また、第 6 の本発明（請求項 6 に対応）は、前記記録再生手段は、前記一時保

存領域に対して、少なくとも記録動作を停止した後に、前記受信されている前記番組データを前記長期保存領域に記録することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 4 】

また、第 7 の本発明（請求項 7 に対応）は、前記一時保存領域から前記長期保存領域にコピーされる前記所定の番組データは、前記一時保存領域に記録された番組データの全部または一部であり、前記一部の場合は、前記一時保存領域上の任意の領域に記録されたデータであることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 5 】

また、第 8 の本発明（請求項 8 に対応）は、映像データおよび／または音声データを含む番組データを受信し、記録および／または再生を行う記録再生装置であって、

前記番組データを一時記録する一時保存領域および前記番組データを長期記録する長期保存領域が設定可能な記録領域と、

前記記憶領域上に前記一時保存領域および前記長期保存領域を設定し、前記一時保存領域または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録再生手段とを備え、

前記記録再生手段は、前記一時保存領域に、受信している番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、

前記一時保存領域上の、前記タイムシフト再生時の再生位置アドレスから記録位置アドレスまでの前記番組データが記録された所定部分を、前記長期保存領域として再設定することを特徴とする記録再生装置である。

【 0 0 2 6 】

また、第 9 の本発明（請求項 9 に対応）は、前記長期保存領域として扱われる、前記一時保存領域上の番組データが記録された所定部分は、前記一時保存領域の全部または一部であり、前記一部の場合は、前記一時保存領域上の任意の領域に記録されたデータであることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 7 】

また、第 1 0 の本発明（請求項 1 0 に対応）は、前記長期保存領域上の、前記再設定により得られた長期保存領域と同一の大きさの領域を、前記一時保存領域

として再設定することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 8 】

また、第 1 1 の本発明（請求項 1 1 に対応）は、前記一時保存領域には、受信された順番に前記番組データが一時記録され、

前記番組データは、前記一時保存領域上で、チャンネルおよび／または番組別に互いに識別できるように一時記録されていることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 2 9 】

また、第 1 2 の本発明（請求項 1 2 に対応）は、前記記録再生手段は、ユーザからの入力に基づき、前記一時保存領域に一時期録された番組データのうち、所定の部分をつなぎ合わせて、前記長期保存領域にコピーを行うことを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 0 】

また、第 1 3 の本発明（請求項 1 3 に対応）は、前記所定の部分をつなぎ合わせられた番組データは 1 つの番組に属するものであることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 1 】

また、第 1 4 の本発明（請求項 1 4 に対応）は、前記番組データの識別は、EPG (Electronic Program Guide) により定められることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 2 】

また、第 1 5 の本発明（請求項 1 5 に対応）は、前記記録再生手段は、前記一時保存領域に一時記録されている番組データのいずれかの番組が終了した場合、前記一時保存領域に記録された番組データを削除することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 3 】

また、第 1 6 の本発明（請求項 1 6 に対応）は、前記いずれかの番組は、現在ユーザが視聴中の番組であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 4 】

また、第 1 7 の本発明（請求項 1 7 に対応）は、ユーザに前記記録再生装置の動作内容を予告する告知手段をさらに備え、

前記告知手段は、前記一時保存領域に記録された番組データを削除することを、前記ユーザに予告することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 5 】

また、第 1 8 の本発明（請求項 1 8 に対応）は、ユーザからの入力操作を受け付ける入力部をさらに備え、

前記入力部を介した前記ユーザの入力操作により、前記一時保存領域の番組データを削除することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 6 】

また、第 1 9 の本発明（請求項 1 9 に対応）は、前記番組の終了する時刻は、EPG（Electronic Program Guide）により定められることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 7 】

また、第 2 0 の本発明（請求項 2 0 に対応）は、前記一時保存領域は、複数の一時保存ファイルを有することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 8 】

また、第 2 1 の本発明（請求項 2 1 に対応）は、1 つの前記一時保存ファイルには、1 つの番組の前記番組データが一時記録されることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 3 9 】

また、第 2 2 の本発明（請求項 2 2 に対応）は、前記一時保存領域は、ユーザが視聴した番組数の一時保存ファイルを有することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 0 】

また、第 2 3 の本発明（請求項 2 3 に対応）は、前記番組は、EPG（Electronic Program Guide）により定められることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 1 】

また、第 2 4 の本発明（請求項 2 4 に対応）は、前記一時保存領域および／または前記長期保存領域に記録される番組データの画質を変更するための画質変更手段をさらに備えたことを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 2 】

また、第 2 5 の本発明（請求項 2 5 に対応）は、前記長期保存領域に記録される番組データの画質の変更は、前記一時保存領域に一時記録されている番組データの画質と同等または、より低画質にするものであることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 3 】

また、第 2 6 の本発明（請求項 2 6 に対応）は、前記一時保存領域に一時記録される前記番組データの画質は、最も高画質な設定であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 4 】

また、第 2 7 の本発明（請求項 2 7 に対応）は、前記画質変更手段は、同一の番組の番組データ内で画質が異なっている場合、前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 5 】

また、第 2 8 の本発明（請求項 2 8 に対応）は、前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させる動作は、前記番組の終了時点で自動的に行われることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 6 】

また、第 2 9 の本発明（請求項 2 9 に対応）は、前記同一の番組の番組データの画質を全て一致させる動作は、前記番組の終了後、前記記録再生手段が記録動作を行っていないときに自動的に行われることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 7 】

また、第 3 0 の本発明（請求項 3 0 に対応）は、前記長期保存領域に対し番組データの長期記録を行う際に、前記画質変更手段に、前記一時保存領域に記録されている番組データの画質と異なる画質が指定されている場合、

前記記録再生手段は、番組の終了まで、前記一時保存領域に保存されている番

組データの画質と同一画質で番組データの長期記録を行い、

前記画質変更手段は、前記番組の終了後に、前記長期保存領域内に記録された番組データの画質を、ユーザが指定した画質に変換することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 8 】

また、第 3 1 の本発明（請求項 3 1 に対応）は、前記番組の終了は、E P G（Electronic Program Guide）に基づき定められるものであることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 4 9 】

また、第 3 2 の本発明（請求項 3 2 に対応）は、同一の番組または互いに異なる番組の番組データにおいて、シーンの変わり目を検出するシーンチェンジ検出部をさらに備え、

前記一時保存領域に記録されている画質と異なる画質の長期記録が指定された場合、

前記シーンチェンジ検出部が検出した前記シーンの変わり目に基づき、前記画質変更手段は、ユーザが指定した画質に変更する機能を有することを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 5 0 】

また、第 3 3 の本発明（請求項 3 3 に対応）は、前記一時保存領域の前記リングバッファは可変長であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 5 1 】

また、第 3 4 の本発明（請求項 3 4 に対応）は、前記一時保存領域の前記リングバッファは固定長であることを特徴とする上記本発明である。

【 0 0 5 2 】

また、第 3 5 の本発明（請求項 3 5 に対応）は、第 1 から第 3 4 の本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータを担持した媒体であって、コンピュータにより処理可能なことを特徴とする媒体である。

【 0 0 5 3 】

また、第 3 6 の本発明（請求項 3 6 に対応）は、第 1 から第 3 4 の本発明の本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータであることを特徴とする情報集合体である。

【 0 0 5 4 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照して説明する。

【 0 0 5 5 】

（実施の形態 1）

図 1 は、本発明の実施の形態 1 による記録再生装置のブロック図である。記録再生装置 1 0 0 において、受信部 1 0 1 は図示しない外部から番組データを受信する手段、エンコーダ 1 0 2 は番組データをエンコードする手段、記録装置 1 0 3 は、ハードディスクにて実現される、エンコーダ 1 0 2 から出力されたデータを記録再生する手段、記録装置制御部 1 0 4 は記録装置 1 0 3 上のデータの記録再生の制御を行うと共に、記録装置 1 0 3 上の記録領域を管理する手段、デコーダ 1 0 5 は記録装置 1 0 3 から出力されたデータをデコードする手段、モニタ 1 0 6 はデコーダ 1 0 5 から出力されたデータを表示する手段である。

【 0 0 5 6 】

また、図 5 は、記録装置 1 0 3 上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図において、記録装置 1 0 3 内のデータ記録領域は、エンコーダ 1 0 2 から入力される番組データを一時記録する一時保存領域 5 0 1 と、ユーザが希望する番組データを長期記録するための長期保存領域 5 0 2 との 2 つの記録領域に分けて設定されている。

【 0 0 5 7 】

一時保存領域 5 0 1 は固定長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域 5 0 2 はユーザが予約録画している番組データや、モニタ 1 0 6 を介して番組を視聴中に、記録装置制御部 1 0 4 の制御により、番組データを長期記録する領域である。

【 0 0 5 8 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 1 による記録再生装置の動作について、以下、図 1、図 5 を用いて説明する。

【 0 0 5 9 】

はじめに、記録時には、受信部 1 0 1 が映像、音声などの番組データを受信すると、受信された番組データはエンコーダ 1 0 2 に送られる。エンコーダ 1 0 2 では、送られてきた番組データをエンコードし、記録装置制御部 1 0 4 で指定された記録装置 1 0 3 の所定の記録領域へ記録する。

【 0 0 6 0 】

再生時には記録制御装置 1 0 4 で指定された記録装置 1 0 3 の領域から番組データを取り出し、デコーダ 1 0 5 に送る。デコーダ 1 0 5 では、送られてきた番組データを復号化し、モニタ 1 0 6 に出力する。

【 0 0 6 1 】

このとき、記録制御装置 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 の記録するアドレスと再生するアドレスを別々に指定することができる。そのため、番組データを記録装置 1 0 3 に記録しながら、記録装置 1 0 3 に記録済の番組データの再生を、記録時のアドレスと同じまたは異なるアドレスから行うタイムシフト再生が可能となる。

【 0 0 6 2 】

図 1 を参照して説明した場合のように、ユーザが番組のタイムシフト再生を行いながら視聴している最中に、巻き戻しや一時停止などの特殊再生を行った場合、一時保存領域 5 0 1 においては、エンコーダ 1 0 2 から出力される番組データの記録位置 5 0 3 と、デコーダ 1 0 5 へ出力される番組データの再生位置 1 0 5 は、記録領域上でアドレスが異なることになる。

【 0 0 6 3 】

その状態でユーザが、タイムシフト再生により視聴中の番組を恒久的に記録しようとする場合は、記録装置制御部 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 内の記録領域において、一時保存領域 5 0 1 の再生位置 5 4 0 から記録位置 5 0 3 までに記録されている番組データを長期保存領域 5 0 3 上の所定の位置にコピーし、それに続いて長期保存領域 5 0 3 に、受信部 1 0 1 が受信する番組の番組データを長期記録

を行う。長期保存記録 5 0 3 への長期記録の終了は、ユーザの制御によってもよいし、番組データに含まれる E P G 等に基づく自動制御でもよい。

【 0 0 6 4 】

このように、本実施の形態によれば、リングバッファである一時保存領域を用いたタイムシフト再生時に、番組データの記録位置と再生位置が異なる場合でも、一時保存領域に一時記録されている番組データを長期保存領域にコピーすることで、記録しようとする番組データの記録を、ユーザが実際にモニタ 1 0 6 により番組を視聴している時間的位置から行うことができる。

【 0 0 6 5 】

なお、以上の実施の形態 1 の説明では、一時保存領域 5 0 1 の再生位置 5 0 4 から記録位置 5 0 3 までの番組データを長期保存領域 5 0 2 にコピーしていたが、一時保存領域 5 0 1 の開始位置または任意の位置からコピーしても同様に実施可能である。

【 0 0 6 6 】

また、上記の実施の形態 1 の説明では、ユーザが録画のための制御を行った時から、一時保存領域 5 0 1 上に一時記録されていた番組データを長期保存領域 5 0 2 にコピーし、それに続いて長期保存領域 5 0 2 に受信される番組データの長期記録を行うものとしたが、ユーザが録画のための制御を行った時から、長期保存領域 5 0 2 への番組データの長期記録を終了した後に、一時保存領域 5 0 1 に一時記録していた番組データを長期保存領域 5 0 2 にコピーしても同様に実施可能である。また、一時保存領域 5 0 1 の番組データが上書きによって消去される直前まで一時記録を続けておいてから、上書き直前に一時保存領域 5 0 1 の番組データを長期保存領域 5 0 2 へコピーしても同様に実施可能である。

【 0 0 6 7 】

また、一時保存領域の再生位置から記録位置までの番組データを長期保存領域にコピーし、それに続いて長期保存領域に番組の終了まで長期記録を行っていたが、一時保存領域に番組の終了まで一時記録した後に、一時保存領域の番組データを長期保存領域にコピーしても同様に実施可能である。特にこのときは一時保存領域 5 0 1 のリングバッファを固定長でなく可変長に設定するのが望ましい。

【 0 0 6 8 】

(実施の形態 2)

本発明の実施の形態 2 による記録再生装置は、記録装置内に設定した一時保存領域を長期保存領域に変更することにより、現在視聴中の番組データを任意の位置から記録するものである。

【 0 0 6 9 】

本発明の実施の形態 2 による記録再生装置の構成は、実施の形態 1 と同様なので、説明には図 1 を用いる。

【 0 0 7 0 】

また、図 6 は、本実施の形態における記録装置 1 0 3 上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図に示すように、記録装置制御部 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 内のデータ記録領域を、番組データを一時記録する一時保存領域 6 0 1 と、ユーザが希望する番組データを長期記録する長期保存領域 6 0 2 の 2 つの記録領域に分けて設定する。一時保存領域 6 0 1 は固定長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域 6 0 2 はユーザが予約録画している番組データや、番組を視聴中に録画のための制御を行ったとき、番組データを長期記録する領域である。ただし、記録装置制御部 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 の記録領域において、一次保存領域 6 0 1 および長期保存領域 6 0 2 を動的に管理することができるものとする。

【 0 0 7 1 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 2 による記録再生装置の動作について、以下に説明を行う。ただし、実施の形態 1 と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【 0 0 7 2 】

実施の形態 1 と同様に、ユーザが番組のタイムシフト再生を行っている最中に、巻き戻しや一時停止などの特殊再生を行った場合、一時保存領域 6 0 1 においては、番組データの記録位置 6 0 3 と、番組データの再生位置 6 0 4 は、記録領域上でアドレスが異なることになる。

【 0 0 7 3 】

その状態でユーザが、タイムシフト再生により視聴中の番組を恒久的に記録しようとする場合は、記録装置制御部 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 内の記録領域において、一時保存領域 5 0 1 において、再生位置 5 4 0 から記録位置 5 0 3 までに記録された番組データが保持している記録領域 6 0 5 を、長期保存領域として再設定する。

【 0 0 7 4 】

一方、記録装置制御部 1 0 5 は、長期保存領域 6 0 2 において、先に長期保存領域として再設定された記録領域 6 0 5 と同等の大きさの記録領域 6 0 6 を、一次保存領域として再設定する。

【 0 0 7 5 】

再設定が終了した後は、長期保存領域 6 0 3 に、受信部 1 0 1 が受信する番組の番組データを長期記録を行う。長期保存記録 5 0 3 への長期記録の終了は、実施の形態 1 と同様、ユーザの制御によってもよいし、番組データに含まれる E P G 等に基づく自動制御でもよい。

【 0 0 7 6 】

このように、本実施の形態によれば、リングバッファである一時保存領域を用いたタイムシフト再生時に、番組データの記録位置と再生位置が異なる場合でも、一時保存領域上の、一時記録されている番組データを含む記録領域を長期保存領域として再設定することで、記録しようとする番組データの記録を、ユーザが実際にモニタ 1 0 6 により番組を視聴している時間的位置から行うことができる。

【 0 0 7 7 】

なお、以上の実施の形態 2 の説明では、一時保存領域の再生位置から記録位置までの番組データ部分を長期保存領域に変更していたが、一時保存領域の開始位置または任意の位置から変更しても同様に実施可能である。

【 0 0 7 8 】

(実施の形態 3)

本発明の実施の形態 3 による記録再生装置は、一時保存領域上に記録された番組データのうち、所定のものをつなぎ合わせて長期保存領域にコピーすることに

より、ユーザが記録したい番組データのみを記録できるものである。

【0079】

本発明の実施の形態3による記録再生装置の構成は、実施の形態1と同様なので、説明には図1を用いる。

【0080】

また、図7は、本実施の形態における記録装置103上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図に示すように、記録装置制御部104は、記録装置103内のデータ記録領域を、番組データを一時記録する一時保存領域701と、ユーザが希望する番組データを長期記録する長期保存領域702の2つの記録領域に分けて設定する。一時保存領域701は固定長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域702はユーザが予約録画している番組データや、番組を視聴中に録画のための制御を行ったとき、番組データを長期記録する領域である。

【0081】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態3による記録再生装置の動作について、以下に説明を行う。ただし、実施の形態1と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【0082】

はじめに、ユーザが番組はタイムシフト再生を行い、かつ巻き戻しや一時停止などの特殊再生を行っているものとする。このとき、ユーザは受信部101を制御して、視聴する番組を次々変更しながらタイムシフト再生を行っているものであり、一次保存領域701には、番組データA1、番組データB、番組データA2、番組データCがすでに一時記録されており、現在は受信部101が受信する番組データA3をタイムシフト再生かつ特殊再生して視聴しているものとする。ただし番組データA1、A2およびA3は同一の番組の番組データであって、番組データB、番組データCと番組データA1～A3は、互いに異なる番組の番組データであるものとする。

【0083】

以上のような状態で、ユーザが視聴中の番組を恒久的に記録しようとする場合

は、記録装置制御部 1 0 4 は、記録装置 1 0 3 内の記録領域において、一時保存領域 5 0 1 の再生位置 5 4 0 から記録位置 5 0 3 までに記録されている番組データ A 3 と、一時保存領域上 7 0 1 上に記録されている番組データ A 1 および A 2 を長期保存領域 5 0 3 上の所定の位置にコピーし、それに続いて長期保存領域 5 0 3 に、受信部 1 0 1 が受信する番組の番組データ A 3 の長期記録を行う。

【 0 0 8 4 】

このとき、一時保存領域 7 0 1 上において、番組データ A 1 ～ A 3、番組データ B、番組データ C の識別は、ユーザが視聴中に受信部 1 0 1 の制御を行って視聴中の番組の変更を行った際に、受信した番組のチャンネルを情報として予め一時保存領域 7 0 1 に、該番組データとともに記録しておき、記録装置制御部 1 0 4 が、コピーする際に参照するようにする。

【 0 0 8 5 】

このように、本実施の形態によれば、一時保存領域の番組データに一時記録されたデータのうち、つなぎ合わせて長期保存領域にコピーすることで、ユーザが記録したい番組データのみを恒久的に記録できる。

【 0 0 8 6 】

なお、以上の実施の形態 3 の説明では、ユーザが番組を視聴中に録画のための制御を行うと、視聴中の番組データと同一の番組の番組データのみをつなぎ合わせて長期保存領域にコピーしていたが、ユーザによる録画のための制御のタイミングは、一時保存領域の記録位置と再生位置が同じ場合（通常の再生）でも、異なる場合（タイムシフト再生）でも同様に実施可能である。

【 0 0 8 7 】

また、実施の形態 1 と同様にして、ユーザが録画のための制御を行った時から、一時保存領域 7 0 1 上に一時記録されていた番組データのうち、視聴中の番組データと同一の番組の番組データのみを長期保存領域 7 0 2 にコピーし、それに続いて長期保存領域 7 0 2 に、受信される番組データの長期記録を行うものとしたが、ユーザが録画のための制御を行った時から、長期保存領域 7 0 2 への番組データの長期記録を終了した後に、一時保存領域 7 0 1 に一時記録していた所定の番組データをつなぎ合わせて長期保存領域 7 0 2 にコピーしても同様に実施可

能である。また、一時保存領域 7 0 1 の番組データが上書きによって消去される直前まで一時記録を続けておいてから、上書き直前に一時保存領域 7 0 1 の所定の番組データをつなぎ合わせて、長期保存領域 7 0 2 へコピーしても同様に実施可能である。

【 0 0 8 8 】

また、一時保存領域の再生位置から記録位置までの番組データを長期保存領域にコピーし、それに続いて長期保存領域に番組の終了まで長期記録を行っていたが、一時保存領域に番組の終了まで一時記録した後に、一時保存領域の所定の番組データをつなぎ合わせて長期保存領域にコピーしても同様に実施可能である。特にこのときは一時保存領域 7 0 1 のリングバッファを固定長でなく可変長に設定するのが望ましい。

【 0 0 8 9 】

また、上記の実施の形態の説明においては、一時保存領域 7 0 1 に記録した番組データの識別には、受信部 1 0 1 において受信する番組データを変更した際のチャンネルの変化等を情報として用いるようにしたが、これに限定する必要はなく、例えば番組データに含まれたり、別途記録した、該番組と対応づけられた E P G を用いるようにしてもよい。

【 0 0 9 0 】

また、上記の実施の形態の説明においては、番組データを識別するための番組のチャンネルの情報は、一時保存領域 7 0 1 に記録するものとして説明を行ったが、この情報は、一時保存領域 7 0 1 に限らず、長期保存領域 7 0 2, もしくは図示しない他の記録手段に別途記録するようにしておいてもよい。

【 0 0 9 1 】

(実施の形態 4)

本発明の実施の形態 4 は、E P G より検出した番組の終了時間に、一時保存領域の番組データを削除するものである。

【 0 0 9 2 】

図 2 は、本発明の実施の形態 2 による記録再生装置のブロック図である。記録再生装置 2 0 0 において、受信部 2 0 1 は図示しない外部から番組データを受信

する手段、エンコーダ 2 0 2 は番組データをエンコードする手段、記録装置 2 0 3 はエンコーダ 2 0 2 から出力されたデータおよび E P G を記録再生する手段、記録装置制御部 2 0 4 は記録装置 1 0 3 上のデータの記録再生の制御を行うと共に、記録装置 2 0 3 上の記録領域を管理する手段、デコーダ 2 0 5 は記録装置 2 0 3 から出力されたデータをデコードする手段、モニタ 2 0 6 はデコーダ 1 0 5 から出力されたデータを表示する手段、入力部 2 0 7 は記録装置制御部 2 0 4 に対して制御のための入力を行う手段、終了時間検出部 2 0 8 は終了時間を検出する手段である。ただし入力部 2 0 7 および終了時間検出部 2 0 8 以外の構成は、実施の形態 1 と同様である。

【 0 0 9 3 】

また、図 8 は、記録装置 2 0 3 上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図において、記録装置 2 0 3 内のデータ記録領域には、エンコーダ 2 0 2 から入力される番組データを一時記録する一時保存領域 8 0 1 が設定されている。またデータ記録領域には、実施の形態 1 と同様の長期保存領域も設定されているが、簡単のために本実施の形態では説明を省略する。

【 0 0 9 4 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 4 による記録再生装置の動作について、以下に説明を行う。ただし、実施の形態 1 と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【 0 0 9 5 】

はじめに、ユーザは受信部 1 0 1 を制御して、視聴する番組を次々変更しているものであり、一次保存領域 8 0 1 には、番組データ A 1、番組データ B、番組データ A 2、番組データ C がすでに一時記録されており、現在は受信部 2 0 1 が受信する番組データ B 2 を視聴しているものとする。また、E P G は記録装置 2 0 3 中に予め格納されているものとする。なお、E P G の取得方法は、放送中の番組データから取得するようにしてもよいし、他の記録媒体や、電話回線等を介して取得してもよく、特に限定はしない。

【 0 0 9 6 】

ユーザが番組を視聴中に、終了時間検出部 2 0 8 が、記憶装置制御部 2 0 4 か

らの指定に基づき、記憶装置 2 0 3 内に格納されている、視聴中の番組の番組データ B 2 の E P G よりその番組の終了時間を検出したら、記録装置制御部 2 0 4 は、一時保存領域 8 0 1 上に記録された番組データ A 1, B 1, A 2, C, B 2 を削除することを表示制御部 2 0 9 によりモニタ 2 0 6 に表示してユーザに知らせる。入力部 2 0 7 からのユーザの入力操作により、記録装置制御部 2 0 4 は、一時保存領域 8 0 1 上の番組データを削除することを決定し、記録装置 2 0 3 内の一時保存領域 8 0 1 上に記録された全ての番組データを消去する。

【 0 0 9 7 】

このように、本実施の形態によれば、E P G に基づき、一時保存領域の番組データをユーザが削除したいときにすることができる。

【 0 0 9 8 】

なお、以上の実施の形態 4 の説明では、ユーザが視聴中の番組の終了時間を、E P G により検出していたが、一時保存領域に一時記録されている番組のいずれかの終了時間を、E P G により検出しても同様に実施可能である。

【 0 0 9 9 】

また、ユーザの入力操作により一時保存領域の番組データを削除していたが、自動で行っても同様に実施可能である。

【 0 1 0 0 】

また、本実施の形態は、実施の形態 1 の構成に入力部 2 0 7 および終了時間検出部 2 0 8 を備えたものとして説明を行ったが、実施の形態 2 または 3 の構成において実現するようにしてもよい。

【 0 1 0 1 】

(実施の形態 5)

本発明の実施の形態 5 は、一時保存領域に複数の一時保存ファイルを準備することで、ユーザが記録したい番組データのみを記録でき、各番組の終了時間に番組データを削除することができるものである。

【 0 1 0 2 】

本発明の実施の形態 3 による記録再生装置の構成は、実施の形態 4 と同様なので、説明には図 2 を用いる。

【0103】

また、図9は、記録装置203上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図において、記録装置203内のデータ記録領域には、エンコーダ202から入力される番組データを一時記録する一時保存領域901が設定されている。またデータ記録領域には、実施の形態1と同様の長期保存領域も設定されているが、簡単のために本実施の形態では説明を省略する。

【0104】

さらに、一時保存領域901は、可変長の一時保存ファイル901a、901b、901cにより構成されている。1つの一時保存ファイルには1つの番組に属する番組データが一時記録される。

【0105】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態5による記録再生装置の動作について、以下に説明を行う。ただし、実施の形態1または4と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【0106】

はじめに、ユーザは受信部201を制御して、視聴する番組を次々変更しているものとする。図9に示すように、時刻 t_0 の時点では、番組Aを視聴しているものすると、受信部201は、番組Aの番組データA1を受信し、記録装置203の一時保存領域901には、番組データA1が一時記録されているものとする。さらに、EPGは記録装置203中に予め格納されているものとする。なお、EPGの取得方法は、放送中の番組データから取得するようにしてもよいし、他の記録媒体や、電話回線等を介して取得してもよく、特に限定はしない。

【0107】

次に、時刻 t_2 になって、ユーザが受信部201を制御して、番組Bの視聴を開始したものとする。記録装置制御部204の制御により、一時保存領域901上には、既に一時保存されていた番組データA1を保持する領域が一時保存ファイル901aとして設定され、受信部201から受信される番組データB1は、一時保存領域901上の新たな領域に一時記録されるとともに、この番組データB1を保持する領域が一時保存ファイル901bとして設定される。

【0108】

続いて、時刻 t_2 になって、ユーザが受信部 201 を制御して、番組 A の視聴を再び開始したものとすると、記録装置制御部 204 の制御により、受信部 201 から受信される番組データ A2 は既に設定された一時保存ファイル 901a に一時記録される。

【0109】

以下、受信部 201 の制御に応じて、受信される番組データの番組が変更される度に、番組データを格納する新たな一時保存ファイルが設定されたり（時刻 t_3 には、番組データ C を一時記録するための一時保存ファイル 901c が設定される）番組データの格納先となる一時保存ファイルが切り換えられたり（時刻 $t_4 \sim t_5$ の間には番組データ A3 を一時保存ファイル 901a へ一時記録）する。

【0110】

次に、ユーザが番組を視聴中に、終了時間検出部 208 が、記憶装置制御部 204 からの指定に基づき、記憶装置 203 内に格納されている EPG より番組 B の終了時間 t_6 を検出したら、記録装置制御部 204 は、その番組 B の番組データ B1 および B2 を一時記録している一時保存ファイル 901b を削除することを表示制御部 209 によりモニタ 206 に表示してユーザに知らせる。

【0111】

入力部 207 からのユーザの入力操作により、一時保存ファイル 901b を削除することを決定する。

【0112】

このように、本実施の形態によれば、一時保存領域に複数の一時保存ファイルを準備することで、番組毎に番組データを一時記録できるとともに、ユーザが記録したい番組データのみを記録でき、各番組の終了時間に、一時記録した番組データを削除することができる。

【0113】

なお、以上の実施の形態 5 の説明では、記録装置 203 に格納されている EPG よりユーザが視聴している番組、すなわち現在受信部 201 が受信している番

組の終了時間を検出したら、その番組の番組データを一時記録している一時保存ファイルを削除していたが、EPGによって、一時保存領域901に一時記録されている一時保存ファイルの番組のいずれかの終了時間を検出しても同様に、該終了時間となった番組の番組データが含まれている一時保存ファイルを削除することが可能である。

【0114】

また、ユーザの入力操作により一時保存ファイルを削除していたが、自動で行っても同様に実施可能である。

【0115】

(実施の形態6)

本発明の実施の形態6は、途中で画質が異なる番組データのファイルを再エンコードすることで、番組データの画質をそろえるものである。

【0116】

図3は、本発明の実施の形態6による記録再生装置のブロック図である。記録再生装置300において、受信部301は図示しない外部から番組データを受信する手段、エンコーダ302は番組データをエンコードする手段、記録装置303はエンコーダ302から出力されたデータを記録再生する手段、記録装置制御部304は記録装置303上のデータの記録再生の制御を行うと共に、記録装置303上の記録領域を管理する手段、デコーダ305は記録装置303から出力されたデータをデコードする手段、モニタ306はデコーダ305から出力されたデータを表示する手段、入力部307は画質制御部308に対して制御のための入力を行う手段、画質制御部308は画質を制御する手段、再エンコード部309は記録装置303から再生された番組データを再エンコードする手段である。また、再エンコード部309は、デコーダ309aおよびエンコーダ309bを有している。ただし、上記の構成において、入力部307、画質制御部308および再エンコード部309以外の構成は、実施の形態1と同様である。

【0117】

また、図10は、記録装置303上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図において、記録装置303内のデータ記録領域は、エンコー

ダ 3 0 2 から入力される番組データを一時記録する一時保存領域 1 0 0 1 と、ユーザが希望する番組データを長期記録するための長期保存領域 1 0 0 2 との 2 つの記録領域に分けて設定されている。

【 0 1 1 8 】

一時保存領域 1 0 0 1 は固定長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域 1 0 0 2 はユーザが予約録画している番組データや、モニタ 3 0 6 を介して番組を視聴中に記録装置制御部 3 0 4 の制御により、番組データを長期記録する領域である。

【 0 1 1 9 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 6 による記録再生装置の動作について、以下、図 3、図 1 0 を用いて説明する。ただし、実施の形態 1 と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【 0 1 2 0 】

はじめに、タイムシフト再生でない、通常の記録動作を行う場合は、受信部 3 0 1 が受信した番組データは、入力部 3 0 7 からのユーザの入力操作により、画質制御部 3 0 8 により設定されたユーザ希望画質で、エンコーダ 3 0 2 によりエンコードされた後、長期保存領域 1 0 0 2 には長期記録されるようになっているものとする。

【 0 1 2 1 】

このとき、ユーザが設定できる画質は、一時保存領域に一時記録されている画質より低画質の場合のみである。

【 0 1 2 2 】

次に、ユーザが番組をタイムシフト再生にて視聴中に、巻き戻しや一時停止などの特殊再生を行った場合、一時保存領域 1 0 0 1 においては、エンコーダ 3 0 2 から出力される番組データの記録位置 1 0 0 3 と、記録装置 3 0 3 から再生される番組データの再生位置 1 0 0 4 とは、記録領域上でアドレスが異なる。

【 0 1 2 3 】

この状態で、ユーザがタイムシフト再生にて視聴中の番組を、恒久的に記録しようとする場合は、記録装置制御部 3 0 4 は、記録装置 3 0 3 内の記録領域にお

いて、一時保存領域 1 0 0 1 の再生位置 1 0 0 4 から記録位置 1 0 0 3 までに記録されている番組データを長期保存領域 1 0 0 2 上の所定の位置にコピーし、それに続いて長期保存領域 1 0 0 2 に、受信部 3 0 1 が受信する番組の番組データを長期記録を行う。

【 0 1 2 4 】

以上の動作において、一時保存領域に一時記録されている番組データの画質と、先に長期保存領域 1 0 0 2 の長期記録に際して、ユーザが設定したユーザ希望画質とが異なるときには、同一番組データ内で途中で画質が異なる。図に示すように、長期保存領域 1 0 0 2 において、一時保存領域 1 0 0 1 からコピーした番組データは高画質データ 1 0 0 6 として、また、タイムシフト再生から記録動作への切り換え以降に記録されたデータはユーザ希望画質データ 1 0 0 7 となっている。

【 0 1 2 5 】

その場合は、番組データの記録終了後に、記録装置 3 0 3 から高画質データ 1 0 0 6 のみを再生し、再エンコード部 3 0 9 にて、高画質データ 1 0 0 6 を一旦デコーダ 3 0 9 a にてデコードした後、エンコーダ 3 0 9 b でエンコードする。その際、画質制御部 3 0 8 の制御にて低画質にてエンコードして、番組データの画質ユーザ希望画質に変換した後、記録装置 3 0 3 の長期保存領域 1 0 0 2 上の当該部分に上書き記録する。これにより、高画質データ 1 0 0 6 の画質をユーザ希望画質データ 1 0 0 7 とそろえる。

【 0 1 2 6 】

このように、本実施の形態によれば、一時保存領域に一時記録した番組データの画質と長期保存のためにユーザが指定する画質とが異なっても、再エンコードすることで、記録される番組データの画質をそろえることができる。

【 0 1 2 7 】

なお、以上の実施の形態 6 の説明では、一時保存領域 1 0 0 1 は、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域であるが、一時保存領域 1 0 0 1 に一時記録する画質は、設定可能な画質の内最も高画質でも同様に実施可能である。

【 0 1 2 8 】

また、一時保存領域 1 0 0 1 の再生位置 1 0 0 4 から記録位置 1 0 0 3 までの番組データを長期保存領域 1 0 0 2 にコピーしていたが、一時保存領域 1 0 0 1 の開始位置または任意の位置からコピーしても同様に実施可能である。

【 0 1 2 9 】

また、上記の実施の形態の説明では、ユーザが録画のための制御を行った時から、一時保存領域 1 0 0 1 上に一時記録されていた番組データを長期保存領域 1 0 0 2 にコピーし、それに続いて長期保存領域 1 0 0 2 に受信される番組データの長期記録を行うものとしたが、ユーザが録画のための制御を行った時から、長期保存領域 1 0 0 2 への番組データの長期記録を終了した後に、一時保存領域 1 0 0 1 に一時記録していた番組データを長期保存領域 1 0 0 2 にコピーしても同様に実施可能である。また、一時保存領域 1 0 0 1 の番組データが上書きによって消去される直前まで一時記録を続けておいてから、上書き直前に一時保存領域 1 0 0 1 の番組データを長期保存領域 1 0 0 2 へコピーしても同様に実施可能である。

【 0 1 3 0 】

また、一時保存領域の再生位置から記録位置までの番組データを長期保存領域にコピーし、それに続いて長期保存領域に番組の終了まで長期記録を行っていたが、一時保存領域に番組の終了まで一時記録した後に、一時保存領域の番組データを長期保存領域にコピーしても同様に実施可能である。特にこのときは一時保存領域 1 0 0 1 のリングバッファを固定長でなく可変長に設定するのが望ましい。

【 0 1 3 1 】

また、本実施の形態は、実施の形態 1 の構成に入力部 3 0 7，画質制御部 3 0 8，再エンコード部 3 0 9 を備えた構成としたが、本実施の形態は実施の形態 2 の構成において実現してもよく、一時保存領域の開始位置または任意の位置から番組データ部分を長期保存領域に再設定した場合でも同様に実施可能である。

【 0 1 3 2 】

また、上記の実施の形態の説明では、番組データの記録終了後に画質の変換を行っていたが、番組の終了後、記録処理を行っていないときに自動的に画質の変

換を行っても同様に実施可能である。

【0133】

また、再エンコード部309で画質の変換を行っていたが、図中鎖線による番組データの循環を行わせ、番組データの再エンコードをデコーダ305とエンコーダ302を用いて実行しても同様に実施可能である。

【0134】

(実施の形態7)

本発明の実施の形態7は、上記実施の形態6において、シーンの変わり目でユーザが指定した画質に変更して番組データを記録するものである。

【0135】

図4は、本発明の実施の形態7による記録再生装置のブロック図である。記録再生装置400において、図3と同一部または相当部は、同一符号を付し説明を省略する。また、シーンチェンジ検出部401は、受信部301から番組データを取得して、シーンの変わり目を検出して、該検出のタイミングを画質制御部308へ出力する手段である。ただしここでシーンチェンジとは、番組データにおいて、CMと番組との変わり目や、表示される画像の輝度や色差、または番組データ中の音声データの変化、さらにMPEG等の圧縮データの場合はフレーム毎の差分の変化を指するものであり、シーンチェンジ検出部308は、この差分の変化を検出するものである。

【0136】

また、図11は、記録装置303上のデータ記録領域の状態を説明するためのマップ図である。図において、記録装置303内のデータ記録領域は、エンコーダ302から入力される番組データを一時記録する一時保存領域1101と、ユーザが希望する番組データを長期記録するための長期保存領域1102との2つの記録領域に分けて設定されている。

【0137】

一時保存領域1101は固定長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域1102はユーザが予約録画している番組データや、モニタ306を介して番組を視聴中に記録装置制御

部 3 0 4 の制御により、番組データを長期記録する領域である。

【 0 1 3 8 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 7 による記録再生装置の動作について、以下、図 4、図 1 1 を用いて説明する。ただし、実施の形態 6 と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【 0 1 3 9 】

はじめに、本実施の形態においては、タイムシフト再生が行われて、受信部 3 0 1 が受信した番組データは、記録装置 3 0 3 の一時保存領域 1 1 0 1 に高画質で一時記録されているものとする。

【 0 1 4 0 】

次に、タイムシフト再生にて視聴中の番組を、恒久的に記録しようとする場合は、記録装置制御部 3 0 4 は、記録装置 3 0 3 内の記録領域において、一時保存領域 1 1 0 1 の再生位置 1 1 0 4 から記録位置 1 1 0 3 までに記録されている番組データを長期保存領域 1 1 0 2 上の所定の一に高画質データ 1 1 0 6 a としてコピーし、それに続いて長期保存領域 1 1 0 2 に、受信部 3 0 1 が受信する番組の番組データを、一時保存領域 1 1 0 1 に対する画質と同じ画質の高画質データ 1 1 0 b として長期記録を行う。

【 0 1 4 1 】

次に、シーンチェンジ検出部 4 1 0 が、受信される番組データにおいて、シーンチェンジを検出すると、画質制御部 3 0 8 は、受信されたデータをエンコードする際に、高画質から、ユーザが指定するユーザ希望画質に切り換え、記録装置 3 0 3 においては、シーンチェンジ 1 1 0 8 以降に受信される番組データを、ユーザ希望画質データ 1 1 0 7 として受信する。

【 0 1 4 2 】

また、一時保存領域に一時記録している画質とユーザが指定する画質が異なるときには、同一番組データ内で途中で画質が異なる。その場合は、実施の形態 6 の場合と同様、番組データの記録終了後に、再エンコード部 3 0 9 で高画質の番組データ部分を低画質に変換することで、番組データの画質をそろえる。

【 0 1 4 3 】

このように、本実施の形態によれば、ユーザがタイムシフト再生から、通常の記録を行った以降の番組の視聴中に、シーンの変わり目で違和感なくユーザが通常の記録用に指定した画質に変換することができる。

【 0 1 4 4 】

なお、以上の実施の形態 7 の説明では、一時保存領域 1 1 0 1 は、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域であるが、一時保存領域 1 1 0 1 に一時記録する画質は、設定可能な画質の内最も高画質でも同様に実施可能である。

【 0 1 4 5 】

また、一時保存領域 1 1 0 1 の再生位置 1 1 0 4 から記録位置 1 1 0 3 までの番組データを長期保存領域 1 1 0 2 にコピーしていたが、一時保存領域 1 1 0 1 の開始位置または任意の位置からコピーしても同様に実施可能である。

【 0 1 4 6 】

また、上記の実施の形態の説明では、ユーザが録画のための制御を行った時から、一時保存領域 1 1 0 1 上に一時記録されていた番組データを長期保存領域 1 1 0 2 にコピーし、それに続いて長期保存領域 1 1 0 2 に受信される番組データの長期記録を行うものとしたが、ユーザが録画のための制御を行った時から、長期保存領域 1 1 0 2 への番組データの長期記録を終了した後に、一時保存領域 1 1 0 1 に一時記録していた番組データを長期保存領域 1 1 0 2 にコピーしても同様に実施可能である。また、一時保存領域 1 1 0 1 の番組データが上書きによって消去される直前まで一時記録を続けておいてから、上書き直前に一時保存領域 1 1 0 1 の番組データを長期保存領域 1 1 0 2 へコピーしても同様に実施可能である。

【 0 1 4 7 】

また、一時保存領域の再生位置から記録位置までの番組データを長期保存領域にコピーし、それに続いて長期保存領域に番組の終了まで長期記録を行っていたが、一時保存領域に番組の終了まで一時記録した後に、一時保存領域の番組データを長期保存領域にコピーしても同様に実施可能である。特にこのときは一時保存領域 1 1 0 1 のリングバッファを固定長でなく可変長に設定するのが望ましい。

【 0 1 4 8 】

また、本実施の形態は、実施の形態 1 の構成に入力部 3 0 7、画質制御部 3 0 8、再エンコード部 3 0 9 を備えた構成としたが、本実施の形態は実施の形態 2 の構成において実現してもよく、一時保存領域の開始位置または任意の位置から番組データ部分を長期保存領域に再設定した場合でも同様に実施可能である。

【 0 1 4 9 】

また、上記の実施の形態の説明では、番組データの記録終了後に画質の変換を行っていたが、番組の終了後、記録処理を行っていないときに自動的に画質の変換を行っても同様に実施可能である。

【 0 1 5 0 】

また、再エンコード部 3 0 9 で画質の変換を行っていたが、図中鎖線による番組データの循環を行わせ、番組データの再エンコードをデコーダ 3 0 5 とエンコーダ 3 0 2 を用いて実行しても同様に実施可能である。

【 0 1 5 1 】

また、受信部が受信するデータが M P E G 等の圧縮デジタルデータである場合は、エンコーダ 3 0 2 を省略した構成とし、受信部 3 0 1 が受信したデータから、差分の変化をシーン検出部 4 0 1 が検出すると、一旦記憶装置 3 0 3 に蓄積された圧縮データを再エンコード部 3 0 9 によりデコードして再エンコードする際に、画質の変換を行うようにしてもよい。

【 0 1 5 2 】

(実施の形態 8)

本発明の実施の形態 8 は、一時保存領域に一時記録している画質で番組の終了まで記録を行い、その後に再エンコードしてユーザが指定する画質に変換するものである。

【 0 1 5 3 】

本発明の実施の形態 8 による記録再生装置の構成は、実施の形態 6 と同様なもので、説明には図 3 を用いる。

【 0 1 5 4 】

また、図 1 2 は、記録装置 3 0 3 上のデータ記録領域の状態を説明するための

マップ図である。図において、記録装置 3 0 3 内のデータ記録領域は、エンコーダ 3 0 2 から入力される番組データを一時記録する一時保存領域 1 2 0 1 と、ユーザが希望する番組データを長期記録するための長期保存領域 1 2 0 2 との 2 つの記録領域に分けて設定されている。

【 0 1 5 5 】

一時保存領域 1 2 0 1 は可変長のリングバッファであり、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域である。長期保存領域 1 2 0 2 はユーザが予約録画している番組データや、モニタ 3 0 6 を介して番組を視聴中に記録装置制御部 3 0 4 の制御により、番組データを長期記録する領域である。

【 0 1 5 6 】

以上のような構成を有する本発明の実施の形態 8 による記録再生装置の動作について、以下、図 3、図 1 2 を用いて説明する。ただし、実施の形態 6 と共通する点は省略し、相違点のみ述べる。

【 0 1 5 7 】

はじめに、タイムシフト再生による視聴においては、番組データは高画質にて記録されるように設定されているものとする。

【 0 1 5 8 】

ユーザがタイムシフト再生にて視聴中の番組を、恒久的に記録しようとする場合は、記録装置制御部 3 0 4 は、記録装置 3 0 3 内の記録領域において、一時保存領域 1 2 0 1 の再生位置 1 2 0 4 から記録位置 1 2 0 3 までに記録されている番組データを長期保存領域 1 2 0 2 上の所定の位置に高画質データ 1 2 0 2 a としてコピーし、それに続いて長期保存領域 1 1 0 2 に、受信部 3 0 1 が受信する番組の番組データを、番組終了まで、一時保存領域 1 1 0 1 に対する画質と同じ画質の高画質データ 1 1 0 b として長期記録を行う。

【 0 1 5 9 】

一時保存領域 1 2 0 1 に記録している番組データの画質とユーザが指定するユーザ希望画質とが異なるときには、同一番組に含まれる番組データ内で途中で画質が異なる。

【 0 1 6 0 】

本実施の形態においては、そのような状態をつくらないために、一時時保存領域 1 2 0 1 に一時記録している画質で番組の終了まで一時記録を行い、その後に再エンコード部 3 0 9 を用いて、長期保存領域 1 2 0 2 内の高画質の番組データ部分である高画質データ 1 2 0 2 a および 1 2 0 2 b を、低画質の番組データ部分であるユーザ希望画質データ 1 2 0 2 C に変換する。

【 0 1 6 1 】

このように、本実施の形態によれば、記録装置内に記録されるデータにおいて、同一番組において、途中で画質が異なる番組データを格納するような状態をつくることなく、ユーザがタイムシフト再生から通常の記録に移行した場合でも、番組を視聴中の画質の変更が行われないため、違和感をなくすることができる。

【 0 1 6 2 】

なお、以上の実施の形態 8 の説明では、一時保存領域 1 2 0 1 は、常にユーザが視聴中の番組データを一時記録する領域であるが、一時保存領域 1 2 0 1 に一時記録する画質は、設定可能な画質の内最も高画質でも同様に実施可能である。

【 0 1 6 3 】

また、一時保存領域 1 2 0 1 の再生位置 1 2 0 4 から記録位置 1 2 0 3 までの番組データを長期保存領域 1 2 0 2 にコピーしていたが、一時保存領域 1 2 0 1 の開始位置または任意の位置からコピーしても同様に実施可能である。

【 0 1 6 4 】

また、本実施の形態は、実施の形態 1 の構成に入力部 3 0 7、画質制御部 3 0 8、再エンコード部 3 0 9 を備えた構成としたが、本実施の形態は実施の形態 2 の構成において実現してもよく、一時保存領域の開始位置または任意の位置から番組データ部分を長期保存領域に再設定した場合でも同様に実施可能である。

【 0 1 6 5 】

また、上記の実施の形態の説明では、番組データの記録終了後に画質の変換を行っていたが、番組の終了後、記録処理を行っていないときに自動的に画質の変換を行っても同様に実施可能である。

【 0 1 6 6 】

また、再エンコード部 3 0 9 で画質の変換を行っていたが、図中鎖線による番

組データの循環を行わせ、番組データの再エンコードをデコーダ 3 0 5 とエンコーダ 3 0 2 を用いて実行しても同様に実施可能である。

【 0 1 6 7 】

なお、上記の説明において、記録装置 1 0 3, 2 0 3, 3 0 3 は、本発明の一時保存領域および長期保存領域を含むものであり、記録装置 1 0 3, 2 0 3, 3 0 3 および記録装置制御部 1 0 4, 2 0 4, 3 0 4 は本発明の記録再生手段に相当するものである。また、画質制御部 3 0 8、再エンコード部 3 0 9 またはエンコーダ 3 0 2 およびデコーダ 3 0 5 は、本発明の画質変更手段に相当するものであり、表示制御部 2 0 9 は本発明の告知手段に相当するものである。

【 0 1 6 8 】

したがって、本発明の構成は、上記のいずれの実施の形態に限定されるものではなく、例えば、各実施の形態において、受信部 1 0 1, 2 0 1, 3 0 1、エンコーダ 1 0 2, 2 0 2, 3 0 2, デコーダ 1 0 5, 2 0 5, 3 0 5、モニタ 1 0 6, 2 0 6, 3 0 6 の全部または一部を別構成として構成してもよい。例えば、エンコーダおよびデコーダを省いた構成とした場合は、番組データとして、アナログ波によるテレビ放送に対して本発明を用いることが可能となる。さらに、エンコーダ 1 0 2, 2 0 2, 3 0 2 のみを省いた構成としたときは、MPEG ストリームを放送するデジタル放送に対して本発明を用いることが可能となる。

【 0 1 6 9 】

また、上記の実施の形態においては、番組の識別や番組の終了時刻の検出には EPG を用いるものとして説明を行ったが、本発明はこれに限定されるものではなく、タイマーを備えたり、番組データが MPEG ストリームである場合は、ストリームパケットのヘッダに含まれる情報を検出して、これを用いてもよい。要するに、本発明は、番組の識別や番組の終了時刻の検出を行うことができるものであれば、何でも利用してよい。

【 0 1 7 0 】

また、上記の実施の形態においては、番組データは映像および音声データからなるものとして説明を行ったが、本発明の番組データは、映像データのみでもよいし、音楽データのみでもよい。また、デジタル化されたデータでもよいし、ア

ナログデータでもよい。デジタル化されたデータとしては、MPEGによる圧縮データでもよいし、DV等の他の規格のデジタルデータでもよい。

【0171】

また、上記の実施の形態においては、記録装置103、203、303はハードディスクにより実現されるものとして説明を行ったが、本発明の記録再生装置は、一時保存領域と長期保存領域とを設定できるものであれば何でもよく、固体メモリ、MOなどの光磁気ディスク、DVD-RAM、CD-RWなどの光ディスクとして実現してもよい。

【0172】

以上のように、本発明によれば、一例として、映像、音声などの番組データを受信し、記録および再生を行う記録再生装置において、番組データを記録する記録装置に、固定長のリングバッファである、ユーザが視聴中の番組データを一時記録する一時保存領域と、ユーザが希望する番組データを長期記録する長期保存領域を有し、前記一時保存領域に番組データのタイムシフト再生を行っているときに、ユーザが前記番組データの長期記録を指示した場合、前記一時保存領域の番組データを前記長期保存領域にコピーすることにより、前記番組データの長期記録を行うことができるという有利な効果が得られる。

【0173】

また、本発明によれば、一例として、一時保存領域から長期保存領域にコピーする番組データは、前記一時保存領域の番組データ全部または一部であり、一部の場合は任意の位置からであることにより、ユーザが視聴中の番組データを任意の位置から記録することができるという有利な効果が得られる。

【0174】

また、本発明によれば、一例として、前記一時保存領域に番組データのタイムシフト再生を行っているときに、ユーザが前記番組の長期記録を指示した場合、前記長期保存領域に前記番組データの長期記録を開始し、一時保存領域から長期保存領域にコピーするタイミングは、前記長期保存領域に番組の終了まで長期記録を行った後に行うことにより、コピーがスムーズに行えることができるという有利な効果が得られる。

【 0 1 7 5 】

また、本発明によれば、一例として、前記一時保存領域に番組データの同時記録再生を行っているときに、ユーザが前記番組の長期記録を指示した場合、前記一時保存領域に前記番組データを継続して記録し、一時保存領域から長期保存領域にコピーするタイミングは、前記一時保存領域に番組の終了まで一時記録を行った後に行うことにより、ファイルの管理が行いやすいという有利な効果が得られる。

【 0 1 7 6 】

また、本発明によれば、一例として、映像、音声などの番組データを受信し、記録および再生を行う記録再生装置において、番組データを記録する記録装置に、ユーザが視聴中の番組データを一時記録する一時保存領域と、ユーザが希望する番組データを長期記録する長期保存領域を有し、前記一時保存領域に番組データの同時記録再生を行っているときに、ユーザが前記番組データの長期記録を指示した場合、前記一時保存領域の番組データ部分を前記長期保存領域に変更することにより、前記番組データの長期記録を行うことができるという有利な効果が得られる。

【 0 1 7 7 】

また、本発明によれば、一例として、一時保存領域から長期保存領域に変更するのは、前記一時保存領域全部または一部であり、一部の場合は任意の位置からであることにより、ユーザが視聴中の番組データを任意の位置から記録することができるという有利な効果が得られる。

【 0 1 7 8 】

また、本発明によれば、一例として、一時保存領域を長期保存領域に変更した領域分、前記長期保存領域を前記一時保存領域に変更することにより、前記一時保存領域が減少しないという有利な効果が得られる。

【 0 1 7 9 】

また、本発明によれば、一例として、一時保存領域にユーザが視聴した順番に番組データを一時記録し、一時保存領域からユーザが記録したい番組データ 1 番組をつなぎ合わせて長期保存領域にコピーを行うことにより、ユーザが記録した

い番組データのみを記録できるという有利な効果が得られる。

【0180】

また、本発明によれば、一例として、ユーザからの入力操作を受け付ける入力部を有し、EPGより可変長である一時保存領域に一時記録されている番組のいずれかの終了時間を検出したら、一時保存領域を削除することをモニタ画面上に表示してユーザに知らせ、ユーザの入力操作により一時保存領域の番組データ削除を決定することにより、ユーザが番組データを削除したいときにできるという有利な効果が得られる。

【0181】

また、本発明によれば、一例として、一時保存領域には可変長である複数の一時保存ファイルが存在し、1つの一時保存ファイルには1つの番組データを一時記録し、ユーザが切り換えた番組数の一時保存ファイルを作成することにより、ユーザが記録したい番組データのみを記録できるという有利な効果が得られる。

【0182】

また、本発明によれば、一例として、EPGより検出した番組の終了時間に、前記番組の一時保存ファイルを削除することにより、終了した番組データのみを削除することができるという有利な効果が得られる。

【0183】

また、本発明によれば、一例として、ユーザからの入力操作を受け付ける入力部を有し、前記入力部を用いて前記長期保存領域に長期記録する番組データの画質を設定する機能を有することにより、ユーザが指定する画質で記録できるという有利な効果が得られる。

【0184】

また、本発明によれば、一例として、前記画質を設定する機能は、前記一時保存領域に一時記録されている画質より低画質の設定のみ可能な機能であることにより、前記一時保存領域に一時記録する画質を設定可能な画質の内最も高画質な設定にすることにより、前記画質を設定する機能は、すべての画質を設定することができるという有利な効果が得られる。

【0185】

また、本発明によれば、一例として、前記記録装置内に記録されている番組データの画質を変換するための再エンコード部を有し、同一番組データ内で画質が異なっている場合、番組データの画質を一致させる機能を有することにより、番組データの画質をそろえることができるという有利な効果が得られる。

【 0 1 8 6 】

また、本発明によれば、一例として、シーンの変わり目を検出するシーンチェンジ検出部を有し、前記入力部を用いて前記長期保存領域に長期記録する番組データの画質を設定する機能を用いて、前記一時保存領域に記録されている画質と異なる画質の長期記録が指定された場合、シーンの変わり目でユーザが指定した画質に変更する機能を有することにより、ユーザが番組を視聴中にシーンの変わり目で違和感なくユーザが指定した画質に変換されるという有利な効果が得られる。

【 0 1 8 7 】

また、本発明によれば、一例として、前記入力部を用いて前記長期保存領域に長期記録する番組データの画質を設定する機能を用いて、前記一時保存領域に記録されている画質と異なる画質の長期記録が指定された場合、継続して同一画質での記録を番組の終了まで行い、番組の終了後に前記再エンコード部を用いて指定画質に変換する機能を有することにより、ユーザが番組を視聴中にユーザが指定した画質に変更されないため違和感がないという有利な効果が得られる。

【 0 1 8 8 】

また、本発明によれば、一例として、前記記録装置内に記録されている同一番組データ内で画質が異なっている場合、番組の終了時点で自動的に番組データの画質を一致させる機能を動作させることにより、画質変換がスムーズに行えるという有利な効果が得られる。

【 0 1 8 9 】

また、本発明によれば、一例として、前記記録装置内に記録されている同一番組データ内で画質が異なっている場合、番組の終了後、記録処理を行っていないときに自動的に番組データの画質を一致させる機能を動作させることにより、画質変換がスムーズに行えるという有利な効果が得られる。

【0190】

なお、上記の説明においては、本発明の実施の形態における記録再生装置について説明を行ったが、本発明は、上述した本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータを担持した媒体であり、コンピュータにより読み取り可能且つ、読み取られた前記プログラムおよび／またはデータが前記コンピュータと協働して前記機能を実行する媒体として実現してもよい。

【0191】

また、本発明は、上述した本発明の全部または一部の手段の全部または一部の機能をコンピュータにより実行させるためのプログラムおよび／またはデータであり、前記コンピュータと協働して前記機能を実行することを特徴とする情報集合体として実現してもよい。

【0192】

また、上記において、データとは、データ構造、データフォーマット、データの種類などを含む。また、媒体とは、ROM等の記録媒体、インターネット等の伝送媒体、光・電波・音波等の伝送媒体を含む。また、担持した媒体とは、例えば、プログラムおよび／またはデータを記録した記録媒体や、プログラムおよび／またはデータを伝送する伝送媒体等をふくむ。

【0193】

さらに、コンピュータにより処理可能とは、例えば、ROMなどの記録媒体の場合であれば、コンピュータにより読みとり可能であることであり、伝送媒体の場合であれば、伝送対象となるプログラムおよび／またはデータが伝送の結果として、コンピュータにより取り扱えることであることを含み、情報集合体とは、例えば、プログラムおよび／またはデータ等のソフトウェアを含むものである。

【0194】

したがって、以上説明した様に、本発明の構成は、ソフトウェア的に実現しても良いし、ハードウェア的に実現しても良い。

【0195】

【発明の効果】

以上説明したところから明らかなように、本発明によれば、タイムシフト再生から通常の記録動作を行った際も、視聴している番組データを欠落させることなく記録することのできる記録再生装置が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態 1、実施の形態 2、実施の形態 3 による記録再生装置のブロック図

【図 2】

本発明の実施の形態 4、実施の形態 5 による記録再生装置のブロック図

【図 3】

本発明の実施の形態 6、実施の形態 8 による記録再生装置のブロック図

【図 4】

本発明の実施の形態 7 による記録再生装置のブロック図

【図 5】

本発明の実施の形態 1 による記録再生装置における記録装置 103 内の番組データのマップ図

【図 6】

本発明の実施の形態 2 による記録再生装置における記録装置 103 内の番組データのマップ図

【図 7】

本発明の実施の形態 3 による記録再生装置における記録装置 103 内の番組データのマップ図

【図 8】

本発明の実施の形態 4 による記録再生装置における記録装置 103 内の番組データのマップ図

【図 9】

本発明の実施の形態 5 による記録再生装置における記録装置 103 内の番組データのマップ図

【図 10】

本発明の実施の形態 6 による記録再生装置における記録装置 1 0 3 内の番組データのマップ図

【図 1 1】

本発明の実施の形態 7 による記録再生装置における記録装置 1 0 3 内の番組データのマップ図

【図 1 2】

本発明の実施の形態 8 による記録再生装置における記録装置 1 0 3 内の番組データのマップ図

【図 1 3】

従来例のタイムシフト再生装置の構成ブロック図

【図 1 4】

従来例のタイムシフト再生装置におけるメモリ内の番組データのマップ図

【符号の説明】

- 1 0 1、2 0 1、3 0 1 受信部
- 1 0 2、2 0 2、3 0 2 エンコーダ
- 1 0 3、2 0 3、3 0 3 記録装置
- 1 0 4、2 0 4、3 0 4 記録装置制御部
- 1 0 5、2 0 5、3 0 5 デコーダ
- 1 0 6、2 0 6、3 0 6、1 3 0 3 モニタ
- 2 0 7、3 0 7、4 0 7 入力部
- 2 0 8 終了時間検出部
- 2 0 9 表示制御部
- 3 0 8、4 0 8 画質制御部
- 3 0 9、4 0 9 再エンコード部
- 4 1 0 シーンチェンジ検出部
- 1 3 0 1 アンテナ
- 1 3 0 2 チューナ
- 1 3 0 4 画像メモリ
- 1 3 0 5 音声メモリ

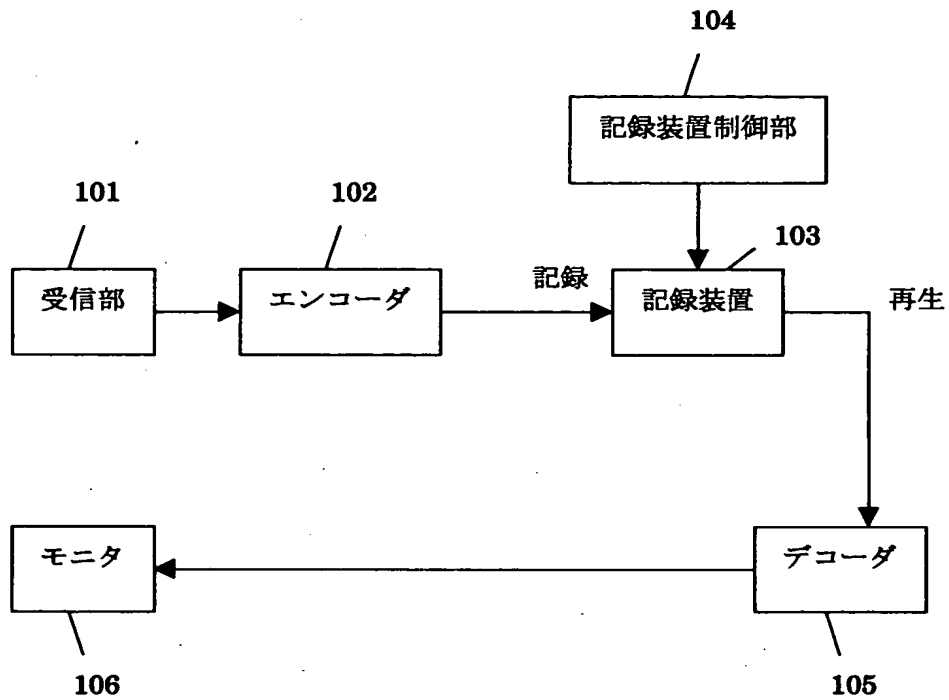
1 3 0 6 演算装置

1 3 0 7 メモリコントローラ

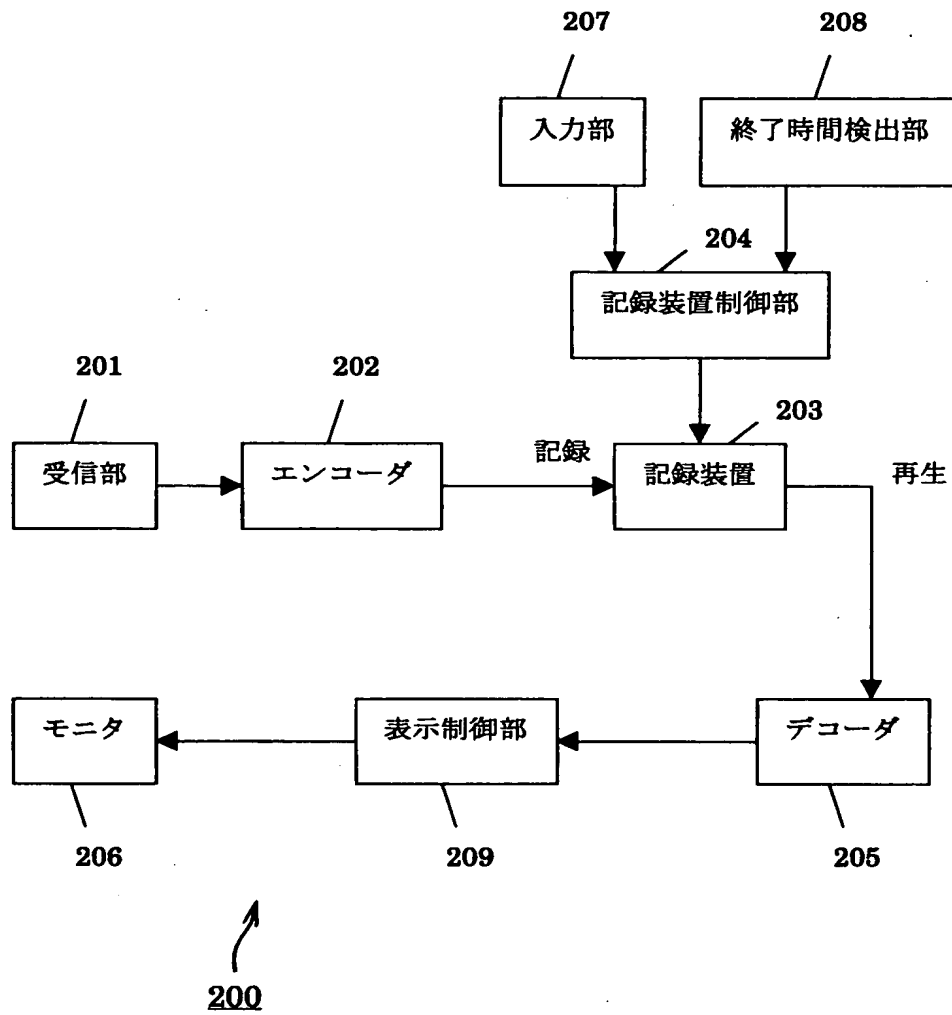
1 3 0 8 切り換えスイッチ

【書類名】 図面

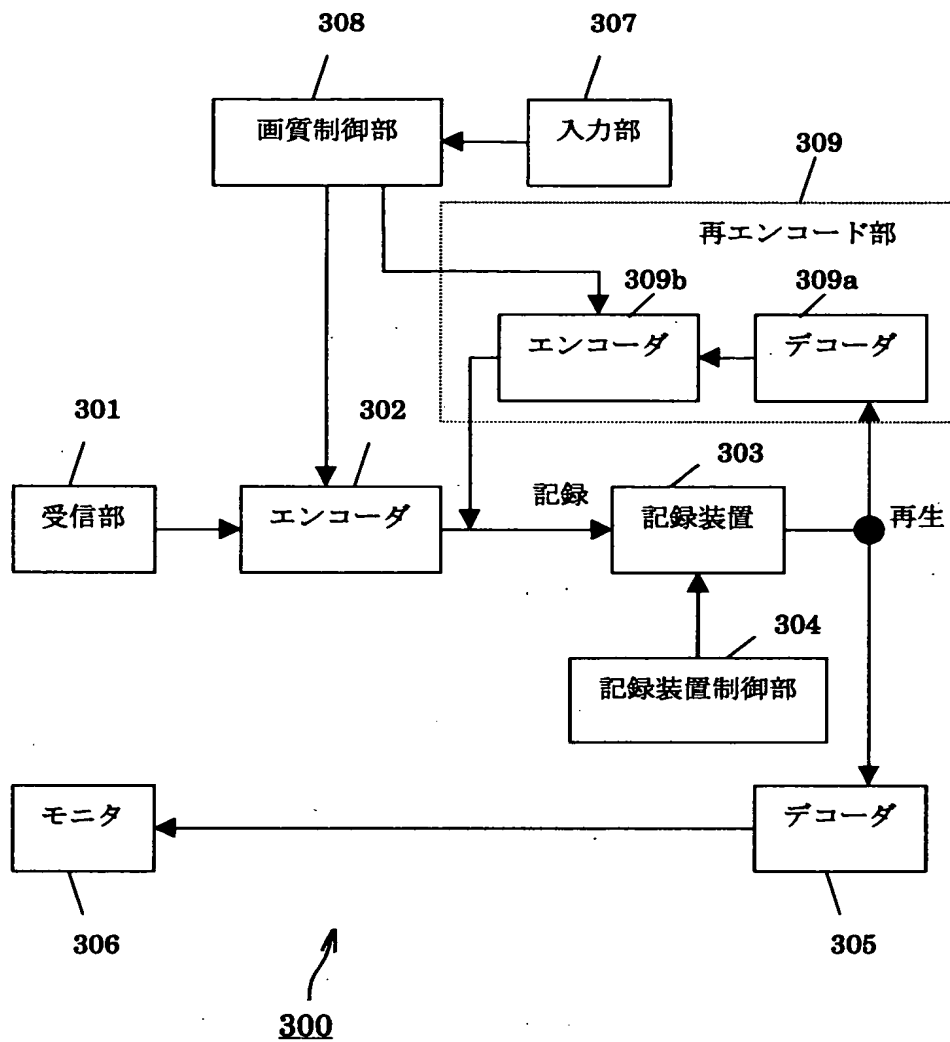
【図 1】



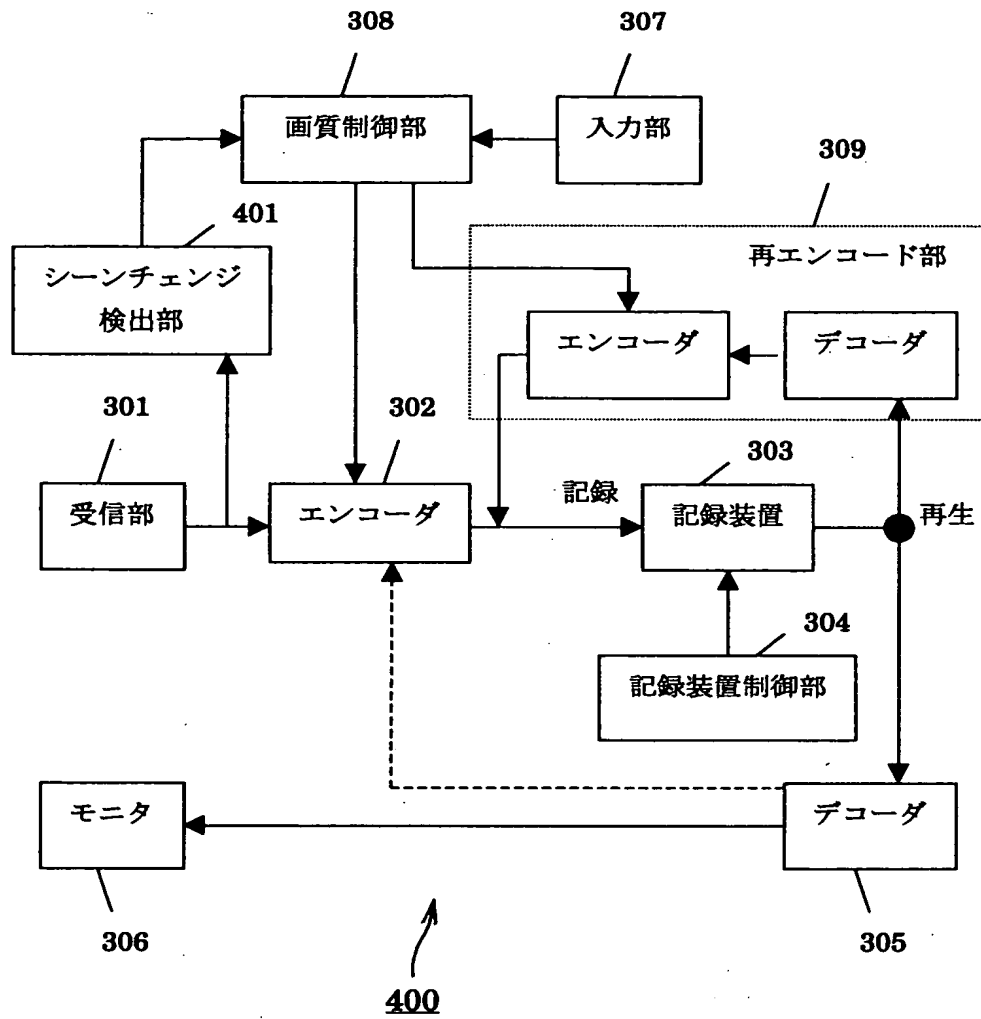
【図 2】



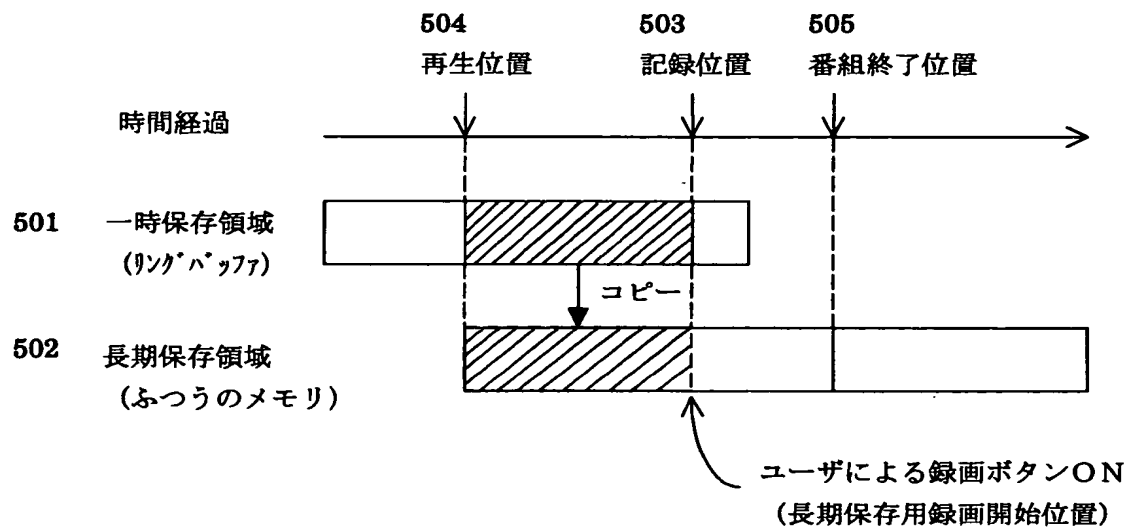
【図 3】



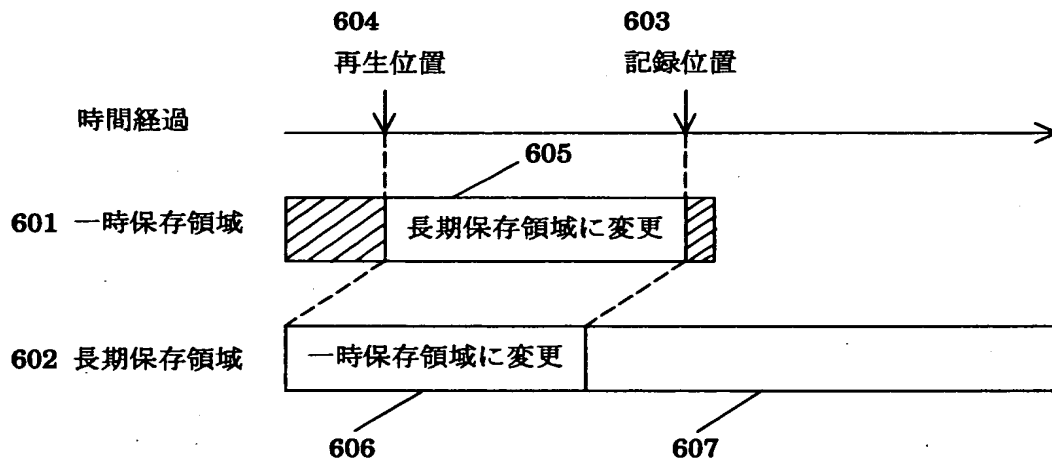
【図 4】



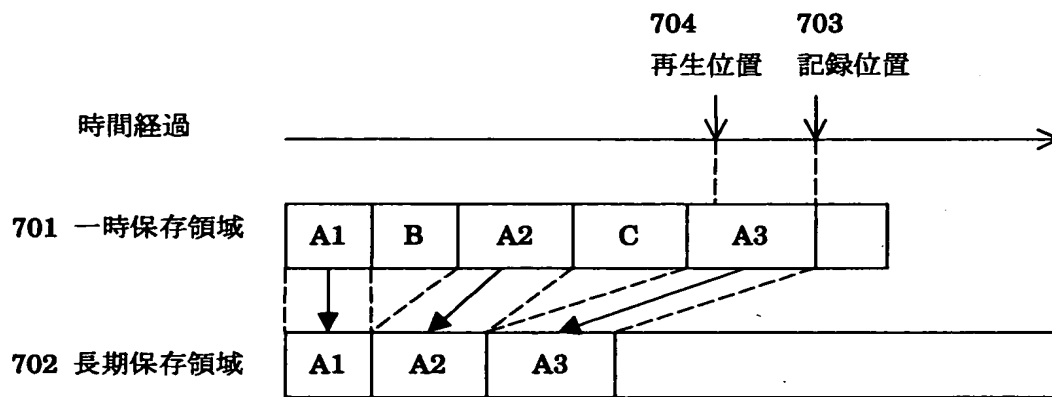
【図 5】



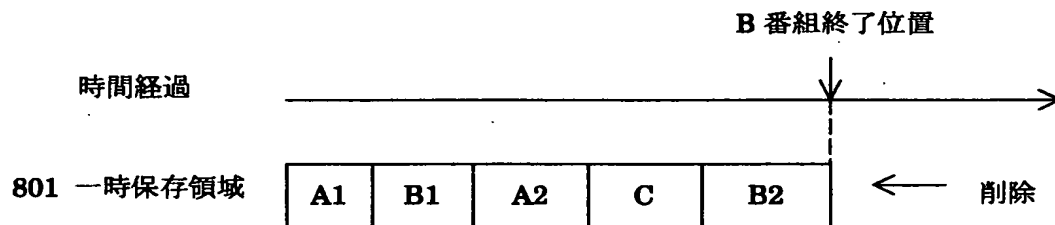
【図 6】



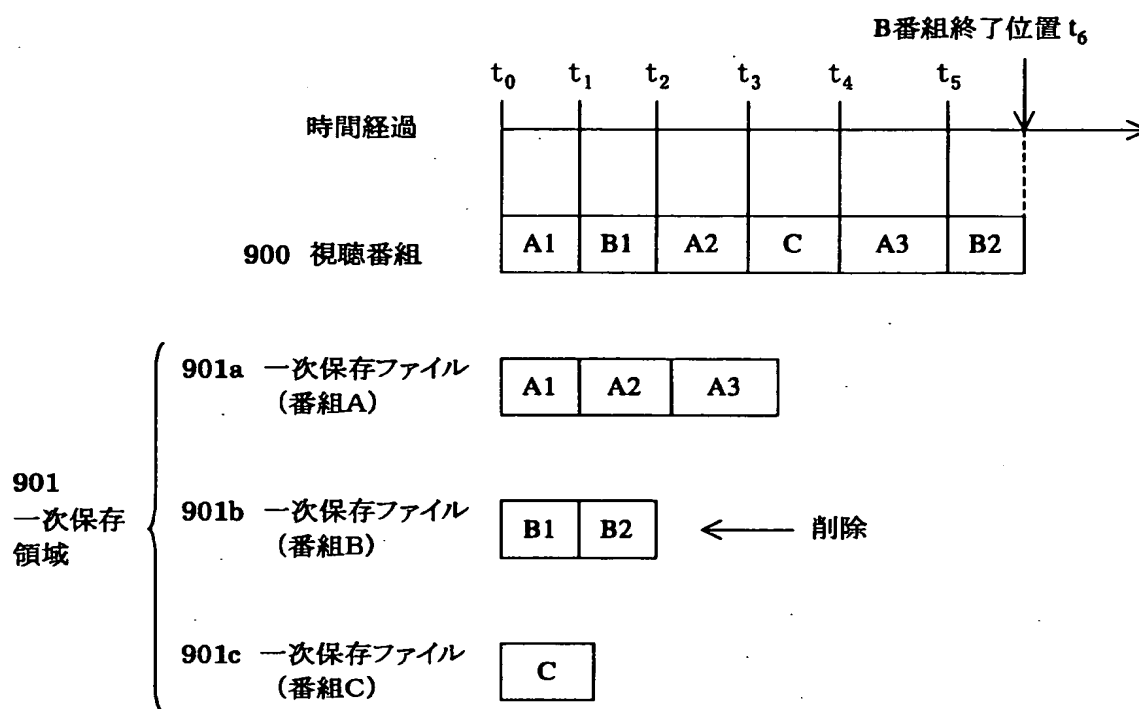
【図 7】



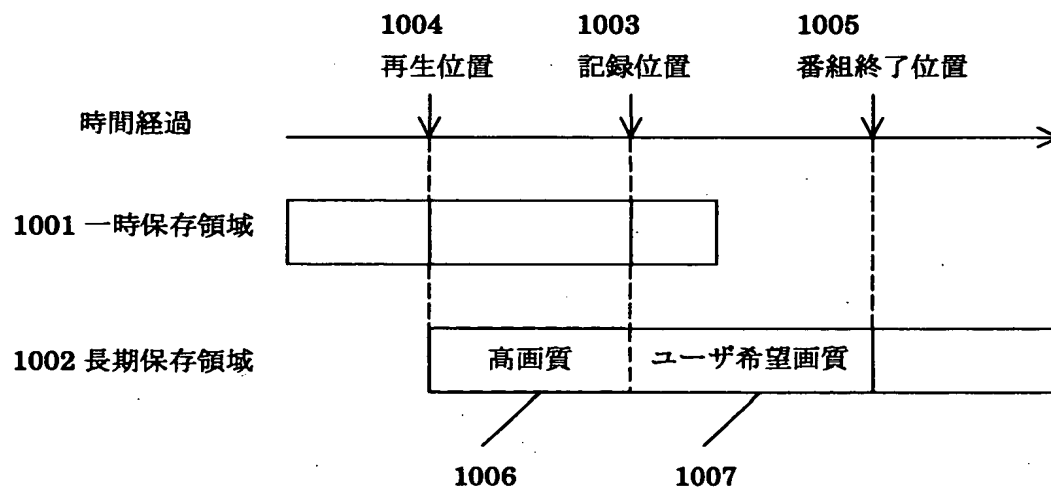
【図 8】



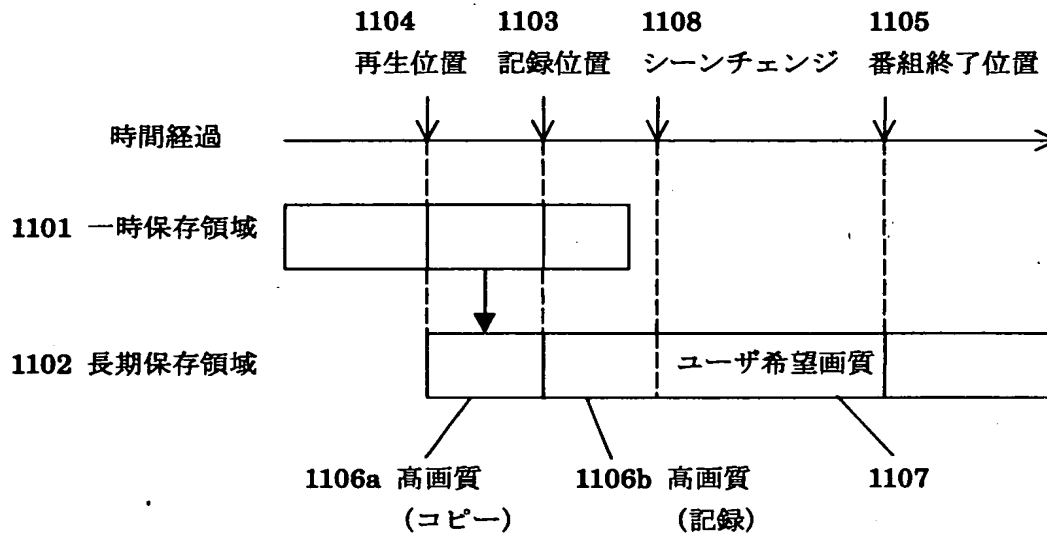
【図 9】



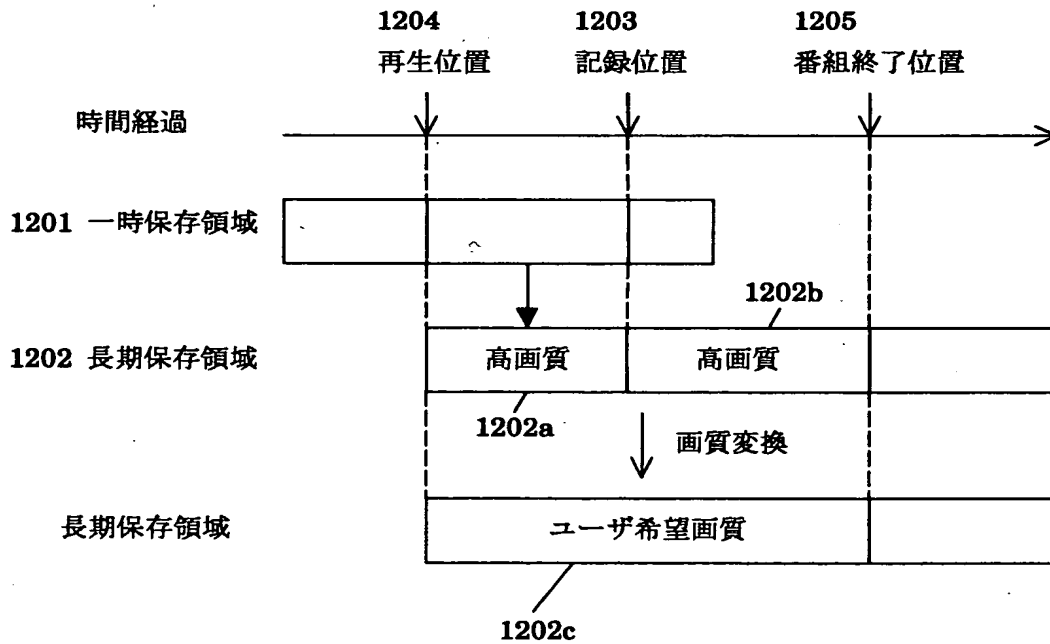
【図 1 0】



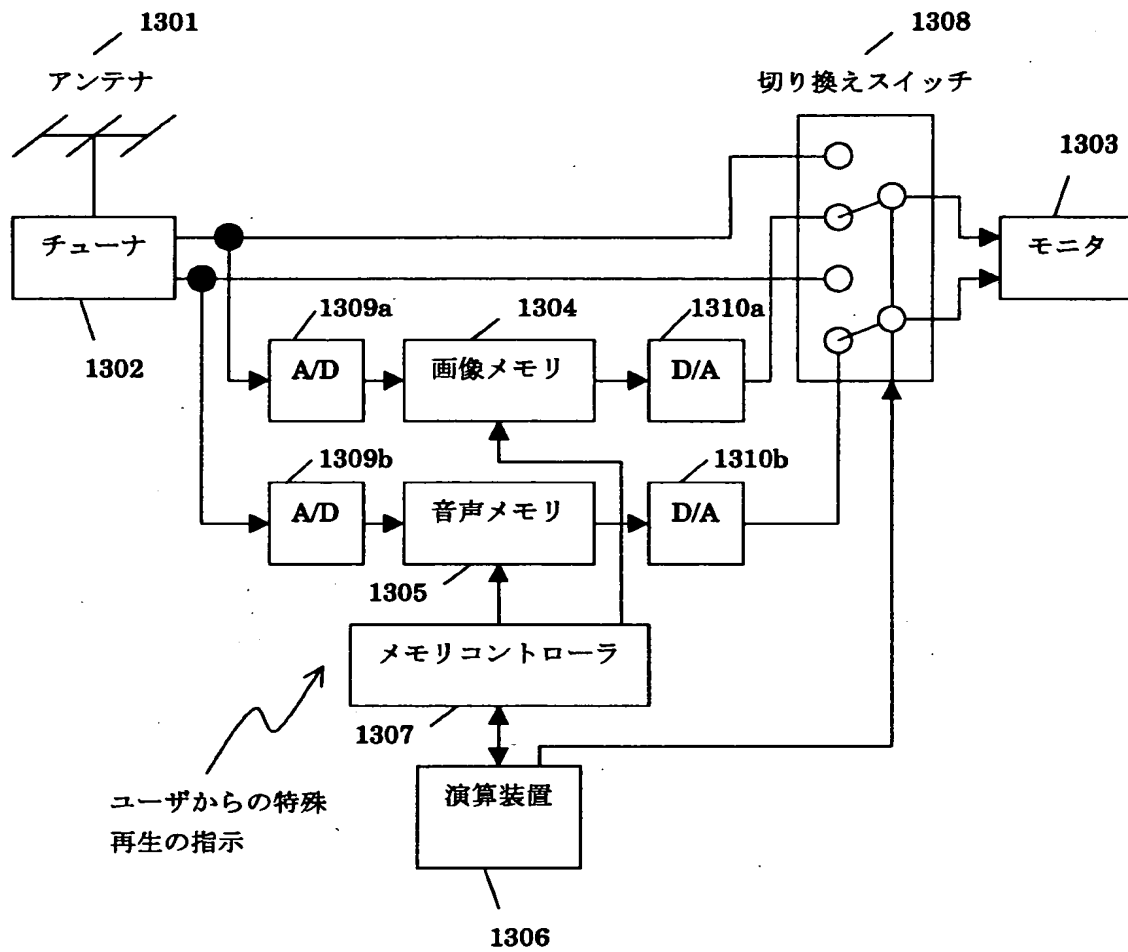
【図 1 1】



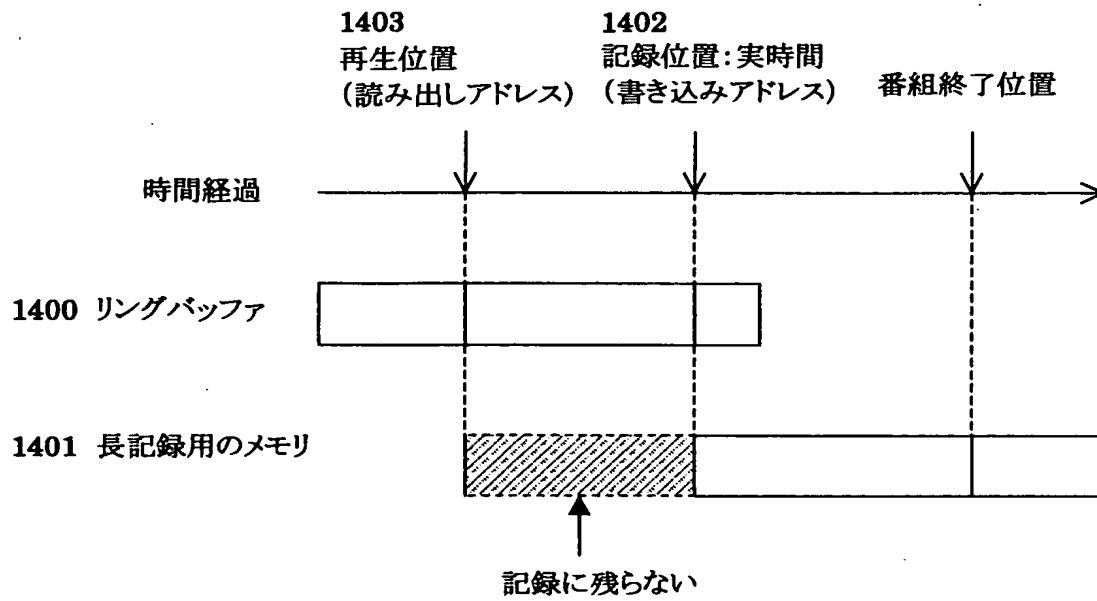
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 タイムシフト装置のメモリにて、書き込みアドレスと読み出しアドレスが異なる場合、記録動作を行ったときアドレス間の番組データが記録されない。

【解決手段】 番組データを一時記録するリングバッファである一時保存領域と番組データを長期記録する長期保存領域と、一時保存領域および／または前記長期保存領域に、前記番組データの記録、再生またはタイムシフト再生を少なくとも行う記録装置 1 0 3 および記録装置制御部 1 0 4 とを備え、一時保存領域に、受信されている番組データのタイムシフト再生を行っているときに、前記番組データの長期記録を指示された場合、少なくとも一時保存領域に記録された所定の番組データを前記長期保存領域にコピーすることを特徴とする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日	1990年 8月28日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名	松下電器産業株式会社